

## 学校法人福岡学園 平成23年度事業報告の概要

### 1. 「口腔医学の学問体系の確立」について

理事長・常務理事・学長等が国公私立歯科大学・歯学部および歯科医師会等に理解と協力を得るよう努めるとともに、文部科学省、厚生労働省および医科・歯科関係学会等の理解を得るよう要請等を行いました。

また、文部科学省選定の戦略的大学連携事業「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」（助成期間は平成 20～22 年度）については、「医歯学連携演習」を TV 配信授業として開講するとともに、一般医学授業科目 6 科目と基礎医学のモデルシラバスを作成しました。

### 2. 教育の改善・充実等について

- (1) 文部科学省選定の大学教育改革 GP（優れた取り組みの助成事業）として、大学では「臨地体験と就業情報通信システム構築による歯学生の就業支援強化」を実施しました。短大では「短期大学教育力活用による学際的就業力育成」を実施しました（平成 22 年度から 5 年間の予定が、国の「事業仕分け」により平成 23 年度限りで廃止）。
- (2) 大学においては、口腔医学カリキュラム確立に向けた「教育課程表等の改定」、臨床実習充実のための「臨床実習の行動目標や評価基準の整備」、低学年教育の改善として新たに実施の「第 1 学年リメディアル教育授業」、研究マインド醸成のため第 3 学年後期カリキュラムに新たに開講した「基礎研究演習」、助言教員が入学から卒業までの学生指導に活用する「学生指導記録簿の作成」等を実施しました。
- (3) 大学院においては、大学院 PT を中心に口腔医学の理念に基づき、総合医学を充実させたカリキュラムの検討を行いました。
- (4) 短大においては、本学園の医科歯科総合病院、介護施設サンシャインシテイ、サンシャインプラザとの協力により、より実践的な臨床臨地実習の充実に努めました。
- (5) 教員の教育能力および教育の質の向上について、大学では新規採用教員教育研修会および新任大学院指導教員研修会を 5 月に実施、短大では毎月 1 回の FD 講演会、毎週 1 回の合同抄読会を開始しました。
- (6) 学生募集について、大学・短大ともに効率的・効果的な高校訪問や九州地区の進学相談会に積極的に参加するとともに、大学では新たに AO 入試Ⅱ期および B 日程試験にセンター試験利用の併願制を導入しました。平成 24 年度入試結果は同窓会の協力も得て、大学・短大ともに昨年の入学者数を上回りましたが、大学では 1 名、短大保健福祉学科では 5 名の定員未充足となりました。
- (7) 「第 105 回歯科医師国家試験」は、既卒者を含めた総合合格率が 66.9%で私立歯科大学中 8 位でした。なお、短大の「第 21 回歯科衛生士国家試験」は 3 年連続で 100%合格を達成しました。

### 3. 研究の活性化について

- (1) 先端科学研究センターの研究は、5年計画の4年目に当たり、研究経費を重点配分し研究推進に努めました。なお、関連する研究プロジェクト「老化の抑制と疾患の制御における環境ストレスとゲノムの応答」を平成24年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に応募しました。平成24年4月に文部科学省から採択通知がありました。
- (2) 再生医学研究センターの「生体内環境を調和する硬組織再建システム」に関する研究について、平成23年5月に研究成果報告会、24年1月にシンポジウムを開催しました。
- (3) 科学研究費獲得PTを学内に立ち上げ、研究計画のブラッシュアップ等に努めた結果、前年度比で新規採択件数が15件の増、補助金総額が1,486万円の増となりました。

### 4. 社会連携・貢献と国際交流について

- (1) 医科歯科総合病院では、病診連携の促進等に努めるとともに、診療参加型臨床実習の充実のため患者増に努めましたが、外来患者数は1日平均579.7人で前年度比3.1%増、入院患者数は28.8人で1.9%減となりました。
- (2) 口腔医療センター（口腔医療に貢献するための地域連携拠点）を平成23年12月に博多駅前開設し、順調にスタートしました。
- (3) 介護老人保健施設では、居宅介護支援事業所や地元公民館の協力を得るなど利用者拡大に努めましたが、前年度比で入所者は0.2%減、通所者は1.5%減となりました。
- (4) 国際交流では、大学がブリティッシュコロンビア大学、上海交通大学、慶熙大学、ヤンゴン歯科大学と学生交流・学術交流を実施しました。短大は歯科衛生学科3年次学生が姉妹校である東釜山大学を相互交流のため訪問しました。

### 5. 組織運営の改善・効率化等について

- (1) 法人名について、歯科医学教育をはじめ医療、保健、福祉の充実・発展に寄与する総合学園として「学校法人福岡学園」に改めることが文部科学省から認可されました。
- (2) 本学では、理事長および学長のリーダーシップの下、全組織の運営が円滑に行われていますが、それを補完するための各種委員会の迅速審議や重要案件決定に必要な情報の整理・提供、コスト削減を踏まえた会議資料の簡明化等に引き続き努めました。
- (3) 全学情報ネットワーク環境の安全維持のため「福岡学園情報セキュリティポリシー」を策定し、情報システム委員会に教育情報・医療情報・情報基盤の各システムの管理運用専門部会を設け、学園関連情報の管理徹底や業務の効率化に資することとしました。
- (4) 総合病院の老朽化対策のため、病院将来構想検討委員会において新病院の開設に関する検討が行われています。

今日の急激な社会変化の中で、本学は平成24年に創立40年の節目の時を迎えます。全ての役員・教職員が本学のミッションを共有し、国民から信頼される歯科医師等の育成を通じて、教育・研究・医療等の革新・充実、地域への貢献に引き続き努めてまいります。

## 学校法人福岡学園 平成23年度事業報告書

### I 法人の概要

#### 1 法人の目的

学校法人福岡学園は、昭和48年に西日本唯一の私立歯科大学として「福岡歯科大学」を開設し、現在、口腔医学の学問体系確立と全身の疾患が理解できる医療人の育成に向けて、特色ある教育研究を行っている。また、地域の医療センターとしての「医科歯科総合病院」のほか、平成23年12月には臨床実習の拡充や地域歯科医療の向上等のため「口腔医療センター」を博多駅前に開設した。この他、全国初となる「口腔保健学士」認定専攻科を有する「福岡医療短期大学(歯科衛生学科・保健福祉学科)」、全国に先駆けて高齢者福祉のための「介護老人保健施設 サンシャインシティ」を併設している。このように、今日まで一貫して教養と良識を備えた有能な歯科医師、歯科衛生士、介護福祉士の養成及び教育・研究者を育成することを目的とし、教育・研究の質の向上及び地域医療・福祉への貢献を目指している。

#### 2 設置する学校・学部・学科等、その入学定員、学生数等の状況は表1のとおり。

表1 設置する学校等 (平成23年5月1日現在)

学校名	学部学科等名	開設年度	修業年限(年)	入学定員(人)	収容定員(人)	在学者数(人)
福岡歯科大学 (学長 北村憲司)	歯学部歯学科	昭和48年	6	120	720	586
	大学院歯学研究科	昭和60年	4	18	72	47
福岡医療短期大学 (学長 栢 豪洋)	歯科衛生学科	平成9年	3	80	240	240
	保健福祉学科	平成12年	2	40	80	55
	計			120	320	295
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	平成11年	1	20	20	13

施設名	区分	開設年度	定員(人)	1日当り利用平均(人)	年間利用延数(人)
介護老人保健施設 サンシャインシティ (施設長 中島興志行)	入所	平成14年	85	81.0	29,657
	通所	平成14年	40	17.9	5,291

#### 3 出願者及び入学者等の状況は表2のとおり。

表2 出願者及び入学者等の状況

学校名	学部学科等名	平成23年度入学者				平成24年度入学者			
		出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者
福岡歯科大学	歯学部歯学科	179	171	152	92	211	197	174	95
	大学院歯学研究科	15	15	15	15	11	11	11	11
福岡医療短期大学	歯科衛生学科	86	86	86	81	101	100	100	93
	保健福祉学科	26	26	26	25	47	46	36	35
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	13	13	13	13	20	20	20	20

4 教職員数は表3、表4のとおり。

表3 教 員 数

(平成23年5月1日現在)

	教授等	准教授	講師	助教	小計	客員教授	客員准教授	臨床教授	臨床准教授	非常勤講師	合計
大 学	35	18	34	50	137	12	2	17	5	75	248
短 大	9	4	5	2	20	-	-	-	-	18	38
老 健	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
合 計	45	22	39	52	158	12	2	17	5	93	287

表4 職 員 数

(平成23年5月1日現在)

	事務職員	技術職員	技能職員	補助職員等	医療職員	介護職員等	医員	合計
大 学	43	7	4	24	-	-	-	78
短 大	3	-	-	-	-	-	-	3
病 院	7	-	-	4	81	-	60	152
老 健	1	-	-	1	17	40	-	59
合 計	54	7	4	29	98	40	60	292

※非常勤職員を含む。

5 役員・評議員・役職教職員は表5、表6、表7のとおり。(平成23年5月1日現在)

表5 理事・監事・顧問 16名

理 事 長	田 中 健 藏
常務理事	青 野 一 哉
常務理事	本 田 武 司
理 事	水 田 祥 代
理 事	北 村 憲 司
理 事	栢 豪 洋
理 事	荒 川 規 矩 男
理 事	宮 口 嚴
理 事	厚 谷 彰 雄
理 事	小 島 寛
理 事	田 代 英 雄
理 事	大 石 秀 雄
理 事	長 谷 宏 一
監 事	安 倍 徹
監 事	長 友 泰 明
顧 問	岩 崎 光 太 郎

表6 評議員 27名

評 議 員	田 中 健 藏
評 議 員	北 村 憲 司
評 議 員	栢 豪 洋
評 議 員	小 島 寛
評 議 員	厚 谷 彰 雄
評 議 員	香 月 俊 博
評 議 員	本 山 久 美 子
評 議 員	石 橋 慶 憲
評 議 員	青 野 一 哉
評 議 員	本 田 武 司
評 議 員	中 島 與 志 行
評 議 員	中 山 宏 明
評 議 員	池 邊 哲 郎
評 議 員	荒 川 規 矩 男
評 議 員	田 代 英 雄
評 議 員	大 石 秀 雄
評 議 員	水 田 祥 代
評 議 員	長 谷 宏 一
評 議 員	松 田 峻 一 良
評 議 員	染 矢 廣 美
評 議 員	熊 澤 榮 三
評 議 員	朔 啓 二 郎
評 議 員	前 原 喜 彦
評 議 員	宮 口 嚴
評 議 員	武 井 俊 哉
評 議 員	吉 田 公 典
評 議 員	高 橋 裕

表7 役職教職員

大 学 長	北 村 憲 司
短 大 学 長	栢 豪 洋
医科歯科総合病院長	小 島 寛
事務局長	厚 谷 彰 雄
学生部長	岡 部 幸 司
情報図書館長	大 関 悟
口腔・歯学部門長	佐 藤 博 信
全身管理・医歯学部門長	湯 浅 賢 治
社会医歯学部門長	埴 岡 隆
基礎医歯学部門長	谷 口 邦 久

## II. 事業の概要

### 1. 「口腔医学の学問体系の確立」について

今日の医歯学の進歩、社会医療環境の変化を踏まえ、さらに歯科医療の逼塞状態の改善等のためにも、「歯学」から「口腔医学」をモットーに、口腔医学教育・口腔医療に対する社会の理解、医師・歯科医師・看護師・歯科衛生士など医療人の意識向上を図る上で適切であるとの考えに立って、平成23年度も引き続き田中理事長、水田常務理事、本田常務理事及び北村大学長等が国公立歯科大学・歯学部及び歯科医師会等に理解と協力を得よう努めた。また、文部科学省、厚生労働省を訪問して理解と支援を要請するとともに、医科及び歯科関係の各学会に対しても趣旨を説明し理解を求めた。

この他、これまで文部科学省からの助成を受け推進してきた戦略的大学連携事業『口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考』（助成期間は平成20年11月20日から平成22年度まで）については、引き続き、本学を代表校とする8大学（九州歯科大学、北海道医療大学、岩手医科大学、昭和大学、神奈川歯科大学、鶴見大学、福岡大学、福岡歯科大学）で共同して取り組んだ。平成23年度は昨年度から継続して連携8大学で作成したシラバスに基づいた連携大学間でのTV配信授業「歯学連携演習」を開講するとともに、一般医学授業科目6科目（産科婦人科、小児科、皮膚科、精神医学・心身医学、眼科及び耳鼻咽喉科）に続いて基礎医学（組織学及び病理学）のモデルシラバスを作成した。平成24年度より、これらカリキュラムを活用したシラバスに基づき講義を実施するとともに、一般医学講義時間数の増加と連携教科の新設により、更なる充実化を図ることとした。また、連携大学間で職員の短期研修派遣やFD研修会の開催にも取り組んだ。さらに平成24年1月には関東地区で初めて「口腔の病気と全身の健康～口腔医学の展開～」をテーマとして口腔医学シンポジウムを開催し、専門の先生方が最新の知見を紹介し、からだの健康を守る口腔医療と口腔医学の展開について広く社会に対しアピールを行った。

### 2. 教育の改善・充実等について

#### 1) 文部科学省・大学教育改革GPの推進

##### (1) 福岡歯科大学

「大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）」を継続実施

平成21年度に採択された標記プログラム『臨地体験と就業情報通信システム構築による歯学生の就業支援強化』（事業期間は平成21年8月31日から平成23年度まで、平成23年度予算800万円）は、特色のある診療施設での臨地体験や優れた診療施設等の就業先情報を収集し、就業情報通信システムを通じて学生に就業意識を向上させ、歯科医師への就業支援を行うことを主な目的としている。平成23年度は、臨地体験に第5学年92名を12施設に派遣して一般歯科医療の現場を体験させるとともに、昨年度講師の中から高い評価の得られた4名の歯科医師を講師としてキャリアパス講演会を開催した。また、「歯科医師キャリア・教育フォーラム」として、シンポジウムと臨地体験報告会を開催した。シンポジウムでは、国際化時代の中での歯科医師キャリア形成をテーマに上海、米国、フィンランド、ミャンマーの4か国の歯科医療が紹介され外国の歯科医療の実際に触れることができた。臨地体験報告会では、代表の12班（訪問施設ごとに1班を選抜）から報告を行い、第5学年全員で臨床実地体験を共有した。

就業情報通信システムは、後発の歯科医師キャリアアンケート機能を搭載して、学生等からの要望が多い検索キーワードを当該システムの検索キーワードとして設定する機能等の充実を図った。また、将来の情報収集の拡大を図るため、学外からのアクセスを可能にするとともに、本学卒業生が経営・勤務する診療医院情報についても直接入力できる機能も付加した。

## (2) 福岡医療短期大学

「大学生の就業力育成支援事業」（文部科学省）を継続実施

平成 22 年度に採択された標記プログラム『短期大学教育力活用による学際的就业力育成』（平成 23 年度予算 1,680 万円）において、「職業観・勤労観」や「キャリア形成の基本的展望」の涵養のための入学前教育・初年次導入教育の充実や、おもに中村学園大学短期大学部（福岡市城南区）の専任教員を招聘して実施した『就業力支援セミナー』を通して、短大全体の教育支援態勢の充実を図ることができた。なお、本教育事業は当初平成 22 年度～26 年度の 5 年間で予定されていたが、11 月の行政刷新会議の「事業仕分け（再仕分け）」により、平成 23 年度限りでの廃止になった。

## 2) 歯学部の教育

### ① 口腔医学カリキュラム確立の推進

口腔医学カリキュラム完成に向けて、口腔医学カリキュラム推進作業グループや多くの関連委員会とで協議調整を行い、一般医学教育の充実（授業時間増・新科目設置・医科臨床実習拡大）を柱とした平成 24 年度実施の課程表や時間割の大幅な改訂を行った。

### ② 臨床実習の充実

臨床実習小委員会、卒業試験小委員会と学務委員会で協議調整を行い、平成 23 年度第 5 学年前後期の臨床実習カリキュラムを企画実施し、臨床実習の行動目標や評価基準の整備を図るとともに、平成 24 年度第 6 学年前期の臨床実習カリキュラム案を作成した。

### ③ 低学年教育の改善

学務委員会の低学年教育改善作業グループで検討を行った結果、平成 23 年度から第 1 学年の新たなリメディアル教育授業（基礎理科、基礎数学）を実施し、基礎理科知識の向上に取り組んだ。

### ④ 態度教育の見直し

第 1 学年の小グループ学習（チュートリアル教育）を再考し、医・口腔医学概論と統合することにより、より目的に合った態度教育科目として充実を図った。また、昨年同様に第 1 学年は新入生研修時に、第 6 学年は後期開始前にそれぞれ禅寺での座禅を実施し、精神力と集中力を養う機会に触れさせた。

### ⑤ 研究者マインドの醸成

今年度からは学部第 3 学年後期に、従来の「基礎 EBM 演習」を改編し、新たに「基礎研究演習」を開講して基礎講座の研究活動を体験させ研究者マインドを醸成させた。

### ⑥ 助言教員制度の充実

学務委員会の助言教員制度改善作業グループで検討を行った結果、助言教員が担当学生の 6 年間を通じた学生指導記録簿を残し、学務課で厳重に保管するとともに、必要に応じて学生の助言指導に活用することとした。

## 3) 大学院の教育

研究科委員会において学位審査制度の見直しを検討した結果、学位予備審査の過程を公開

審査とし、学位申請者による発表会と審査委員による質疑応答を公開で行うこととし、また、学外からの専門家も審査委員として含めることにより、厳正な学位審査と公平な評価の実施に取り組んだ。

本年度の課程修了は第4学年9名であり、学位を取得した。論文博士は1名を認定した。また、九州大学大学院歯学研究院との間の研究指導協定に基づき学生1名を派遣した。この他、奨学生制度において、一般奨学生10名、特別奨学生10名、リサーチアシスタント14名、ティーチングアシスタント10名を選考した。なお、学生共済会大学院一般奨学金は1名に貸与した。また、学部第3学年後期「基礎研究演習」で基礎講座での研究活動を体験させることにより、将来の大学院確保に向けての研究者マインドの育成に努めた。

大学院充実P Tにおいては、口腔医学に沿って総合医学基本テーマを充実させ、講義に加え臨床演習を行うカリキュラムを検討し、来年度第1学年より実施することとした。

#### 4) 医療短大の教育

##### (1) 教育方法の改善等

###### ① 実習重視型教育

歯科衛生学科は、併設の医科歯科総合病院並びに介護施設サンシャインシティ及びサンシャインプラザにおいて口腔介護臨床実習を、保健福祉学科は、両介護施設において介護実習を継続して実施した。

###### ② 学生の授業評価を継続実施

講義を担当した教員全員（非常勤講師を含む）について、学生対象の当該授業評価アンケートを前・後期末の授業終了後に実施し、その集計結果をレーダーチャートの形式で担当教員にフィードバックし、次年度以降の教育改善のための資料として活用した。

###### ③ 資格取得支援教育を継続実施

歯科衛生学科では2学年89名が、訪問介護員（ホームヘルパー）2級養成授業を受講し、平成24年5月に全員が資格取得予定である。

また、保健福祉学科は、卒業生全員（30名）が介護福祉士資格及び社会福祉主事任用資格を取得し、16名がレクリエーション・インストラクター資格を取得した。

#### 5) 教員の教育能力および教育の質の向上

(1) F D委員会において、毎年、組織的なF Dの実施に取り組んでおり、F D事業を3つの目的別（学生支援の充実、教員の資質向上、大学院及び研究の活性化）に分け効果的なF Dとなるよう取り組んでいる。平成23年度は、新規採用教員教育研修会及び新任大学院指導教員研修会を5月に実施した。また、今年度も、九州大学を幹事校として福岡市の6大学で構成する「九州地域大学教育改善F D・S Dネットワーク(Q-L i n k s)」が企画したQ-L a b C Dプロジェクトに本学から1名が参加したほか、戦略的大学連携事業の一環として、10月に初めてシラバス作成ワークショップを連携大学間でT V会議システムを用いて開催し、遠隔の大学間においても十分な意見交換を行うことができた。

その他、F D関連事業として、セクハラ防止委員会との共催でハラスメント講演会を5月に開催、助言教員制度を充実させるためのワークショップを6月に3回開催、多肢選択問題作成ワークショップを11月に開催し、教員の教育力向上に努めた。

(2) 福岡医療短期大学では、教育力の向上を目的として、全教員が講師を担当するF D講演会（教育方法の工夫、口腔介護教育、研究に関する報告等）を継続して開催しているが、平成23年度は毎月1回のF D講演会に加えて、研究活動の推進のために、毎週1回の短大

合同抄読会を開催した。

## 6) 学生確保

アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについては、大学・短大ともにホームページ、大学案内、入学試験要項等で公開し広く周知を図った。また、ホームページに掲載する情報は受験生の視点を意識し、見やすい資料の掲載に努めた。

福岡歯科大学では、平成 24 年度入試については、入試委員会及び受験者対策 P T、また学生募集担当主査を中心に高校訪問募集活動を見直し、①高校訪問前の担当教員の説明会の徹底、②高校訪問対象校の見直し、③高校訪問時の資料の整備を行ったほか、重点校を決め効率的な高校訪問を行った。徐々にではあるが、高校教員との関係も強化されてきた。新しい試みとしては、九州内で実施される進学相談会（高 1・2 年生対象）に参加した。（長崎県内 3 会場）また、入試実施方法についても、①一般入試 A 日程における特待生制度の新規導入、②センター試験利用入試を 2 回とし、それぞれ A 日程、B 日程と同一日に実施し併願制を導入、③3 月に A0 入試Ⅱ期を新規に設定したが、募集定員 96 名を満たさなかったため追加募集を実施した。この結果、平成 23 年度の入学者数は最終的には募集人員を 1 名下回る 95 名となった。

福岡医療短期大学では、学生募集活動についての組織的な方策を短大運営会議において継続して検討し、高校訪問募集活動のエリア担当者を定め、効果的に実施した。また、保健福祉学科では入学者の授業料減免制度、学生納付金の 4 期分納制度を導入するとともに、福岡県職業訓練制度を利用した志望学生を積極的に受け入れ 35 名の入学生を確保した。歯科衛生学科では、オープンキャンパスにおける「歯科衛生士体験」（平成 22 年度から実施）が好評であったので、これをシリーズ化して実施するなど学生の確保に努めたほか、高校生対象の進学ガイダンスや出前講義など計 19 回実施した結果、93 名の入学生を確保した。

## 7) 国家試験

(1) 福岡歯科大学では、今年度も前年同様、「卒業試験小委員会」で卒業試験及び再試験問題のブラッシュアップを行った。また、卒業資格判定においても審査を厳格にし、学力が担保されていると保障できる者について卒業を認めた。その結果、今年度は 95 名が卒業を許可され第 105 回国家試験を受験し、69 名が合格した。合格率は 72.6%であり、前回の 72.2%から 0.4 ポイント増で昨年と同様な結果となった。既卒者を含めた総合の合格率は 66.9%で 17 私立歯科大学中第 8 位であった。（私立歯科大学全国平均合格率 67.3%）

共用試験は、第 4 学年 96 名が受験し CBT で 14 名が再試を受験した結果、4 名が不合格となり留級した。

(2) 福岡医療短期大学歯科衛生学科は、過年度に引き続き歯科衛生士国家試験の 100%合格を目指して、平成 23 年度は 2 学年に演習試験を 5 回、3 学年には 15 回の演習試験を行うとともに、各回の成績不振者に対しては、水曜日、土曜日に国家試験問題集を使用する補習を実施するなど、全教員が早期から対応した。その結果、第 21 回歯科衛生士国家試験では受験者 62 名全員（新卒のみ）が合格し、3 年連続 100%合格を達成した。（全国平均合格率 95.8%）

## 8) 修学等の支援

### (1) 施設・設備の整備充実

#### ① e-learning システムを利用した教材開発

e-learning システムを利用した授業コンテンツ作成に関する WG で教材作成に係る指



針及び教材モデル案を作り、次年度へ向けた準備を行った。

## ② 情報処理実習室の整備

e-learning を始めとする ICT を活用した教育法の急速な進展により、ファイルの大容量化、ファイル数の増大に対応し、システムの高速化を図る必要から、12月に文部科学省の研究設備整備費等補助金を受け、パソコン111台（学生用108台、教員用3台）及びサーバーの更新を行った。

## ③ 講義室の吸音化工事

本館の602、703、803講義室及び短大の101講義室について、講義中の残響音による支障を取り除くため、吸音化工事を実施した。

## ④ ラーニング・コモンズへの取り組み

平成23年3月に整備した9階オープンスペース（ラーニング・コモンズの考えによる自学・自習やグループ学習のための場）の活用推進として、①無線LANによるe-learning学習環境の実現、②学生が自由に閲覧できる図書の整備（平成24年3月30日現在で111冊）を行い、学生の自学・自習を支援する新たな図書館サービスの取り組みを開始した。

## ⑤ 短期大学のトイレウォシュレット化工事

学習環境整備の一環として、短期大学トイレ（1階、2階及び3階の各トイレ内（女子12台、男子2台）のウォシュレット化工事を12月に行った。

## (2) 福岡歯科大学父兄後援会・学生共済会・同窓会との連携

① 5月には父兄後援会の役員と学園理事長や本学教授等との懇談を実施し、学生に対する就学環境の整備等についての意見交換を行った。また、8月に17地区で開催された父兄後援会支部懇談会に、本学から北村学長及び役職教員が出席し、本学の現況、学生の学業成績等について説明し、父兄の協力を要請するとともに父兄からの要望も聴取した。

② 学生共済会は、3月及び5月に理事会と代議員会の合同会議を開催し、学生の支援のために実施する諸事業について審議し、年間の事業計画を決定した。この事業計画の中で、新たに学生の就学支援の充実を図った。なお、平成23年度は就学共済給付金を4名に給付したほか、一般奨学金貸与は39名、大学院一般奨学金は1名に貸与した。

③ 同窓会とは、毎年5月に開催される同窓会定時総会懇親会や定例懇談会に理事長他役員が出席し、意見交換を行って連携を図った。また、5月29日には同窓生オープンキャンパス・入試説明会、6月12日には同窓生入試説明会を開催し、理事長、大学長他役職教員等及び同窓会役員が出席して、参加された同窓生とその子弟らに学内施設見学や大学及び入試の概況説明を行った。

## (3) 多様な学生に対応した将来の進路を含めた指導の実施

福岡歯科大学では、助言教員が日々学生の指導を行っているほか、オフィスアワーにおいても修学上の問題等について個別の面談や相談を実施しており、平成23年度は休退学に関する学生や保護者からの多くの相談に、学生部長、助言教員が個別に丁寧に対応した。

福岡医療短期大学両学科では、成績不振学生に対する補習授業を実施するとともに、各期毎に学年担任と助言教員による父兄面談と学生指導を継続して行った。

## 3. 研究の活性化について

### 1) 先端科学研究センター

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の支援を受けて、「疾患の抑制におけるゲノム安定性と環境ストレスの制御」の研究を平成20年度より5年間にわたって実施し

ている。平成 23 年度はその 4 年目にあたり、研究経費 40,000 千円を重点配分して、これまでの 3 年間の研究を引き継いで計画研究と公募研究の 2 つの方式で研究を進めた。計画研究は別表 1 に示す 12 名の研究者がそれぞれの分担課題に関する研究を行った。疾患の発症やその進行には遺伝的及び環境的要因が複雑に絡みあっているが、生体内でゲノムを安定に維持する機構を明らかにし、それに関わる遺伝子産物の働きの解明を通じて疾患を抑制する手だてを探るという立場で研究を進めている。計画研究ではこの問題に関連する基礎から臨床にまたがる諸課題を解明するための研究を行った。公募研究はこれに関わる問題により自由な立場から挑戦し、新しい視点から研究を展開しようとして設定したものである。そのため学内の教員から公募した課題について計画研究の担当者が紙面と口頭発表に基づいて審査し、11 課題を採択した。その研究者と課題名は別表 2 に示す。これらの研究者には内容や審査結果に基づいて本年度は 50 万円から 70 万円の研究費を配分した。公募研究は平成 23、24 年の 2 年間にわたって行い、その結果について平成 25 年の初めに学内公開の発表会を開いて報告する。計画研究についても同時期に発表会を開催する予定である。

先端科学研究センターの実験室には、これまでの戦略的研究基盤形成支援事業の支援を受けて購入した多くの機器を設置しており、計画研究、公募研究の担当者を中心に学内の多くの研究者が共同利用して成果をあげている。本年度は高感度ルミノメーター、サンプル密閉式超音波破碎装置を新たに設置した。

## 2) 再生医学研究センター

文部科学省の平成 22 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された研究プロジェクト「生体内環境を調和する硬組織再建システム」に関する研究を継続して行っている。実施期間は平成 22 年度から平成 26 年度までの 5 年間であり、2 年目にあたる平成 23 年度も初年度と同じく研究費として約 29,000 千円の予算を組み、計画研究を行う 11 名の研究者と、学内公募により採択された 6 名の研究者に配分し、研究を実施した。研究進捗状況を研究分担者全員で把握するために月 1 回の報告会を行っている。平成 22 年度の研究成果報告会を 5 月に行った。プログラムを別表 3 に示す。また、平成 24 年 1 月には再生学研究センターシンポジウムを開催し、広島大学医歯薬学総合研究科、河田俊嗣准教授並びに東京女子医科大学先端生命医科学研究所、大和雅之教授を招いて特別講演を行っていただいた。プログラムを別表 4 に示す。

## 3) アニマルセンター

使用者講習会は、更新者（4 年毎）14 名、新規登録者 16 名が受講した。実験申請件数は 23 件であった。動物種の導入ではラットが 52 匹増、SPF 室を利用した SPF マウスが 2 匹増となり、研究活動の活性化も見られた。また、2 台の大型オートクレーブを 23 年度と 24 年度の 2 年にわたり、順次オーバーホールして、利用者へのサービス向上を図っている。

## 4) 科研費等の外部資金の導入等

平成 23 年度科学研究費補助金の獲得状況は、別表 5(大学)、別表 6(短大)のとおり。科研費獲得に向けて、23 年度は申請予定者を対象に、申請のポイント等に関する説明会のほか、学内で科研費獲得 P T を立ち上げ、申請書のブラッシュアップを行い、より精度化された申請書を提出に努めた。その結果、福岡歯科大学では前年度に比し、新規採択件数が 15 件（10 件から 25 件）増、補助金総額が 14,860 千円増となった。また、福岡歯科大学は奨学寄附金として 20 件（9,500 千円）、受託研究として 3 件（7,587 千円）を、福岡医療短期大学は奨学寄附金 1 件（250 千円）を受け入れた。

#### 5) 教員に対する研究活性化の取り組み

福岡歯科大学・福岡医療短期大学における研究活性化の一環として、専任教員及び医員等を対象に、6か月毎に研究（研修）テーマの取組み進捗状況をまとめ所属長を経て理事長に提出させ、理事長はこの報告書をもとに学長とともに各所属長と面談を行い、若手教員の育成、計画的な研究の実施に向けての指導を行った。

また、教育研究経費等として、福岡歯科大学には学長重点配分経費 50,000 千円、病院長重点配分経費 5,000 千円、学術振興基金事業経費 23,900 千円を、福岡医療短期大学には 1,000 千円を共同研究費として重点配分した。

平成 23 年度の研究業績は、福岡歯科大学専任教員の総論文数（著書、総説、原著論文、症例報告等）は 159 編、うち欧文は 85 編であり、福岡医療短期大学専任教員の総論文数（著書、原著論文等）は 19 編、うち欧文は 2 編であった（別表 7）。

#### 6) 本館非常用発電機設置工事

既設の非常用発電機では学園全体に電力を供給する容量を確保しておらず、計画停電等で長時間停電した場合、病院等に優先的に電力を供給すると本館には電力を供給できない事態が生じる恐れがあることから、11月、本館研究室に設置のフリーザー等の電力を確保するため本館棟専用の非常用発電機を学生食堂西側（屋外）に設置した。

### 4. 社会連携・国際交流について

#### 1) 医科歯科総合病院

##### (1) 患者数等

医科歯科総合病院の外来患者・入院患者総数等は表 8 のとおり。

表 8 外来患者・入院患者総数等

	外来患者総数(人)		入院患者総数(人)	
	23 年度	対前年比	23 年度	対前年比
医 科	34,022	5.2%増	6,285	22.0%減
歯 科	122,213	2.5%増	4,241	58.8%増
合 計	156,235	3.1%増	10,526	1.9%減
1 日 当 り	579.7	—	28.8	—
平均在院日数	—	—	10 日	—
病床稼働率	—	—	52.3%	1.3%減

##### (2) 平成 24 年度の医療機能評価受審の対応

病院機能評価委員会において各領域の項目担当者を決定のうえ各領域の現状と問題点について検討し、認定病院として機能の充実を図った。平成 24 年 3 月 31 日付で各領域の達成状況を確認し、残った問題点は継続して解決を図ることとしている。

##### (3) 患者増対策

新聞広告、近隣町内会回覧板広告、西鉄バス車内放送、学園出入口付近看板広告等、病院案内等協力病院配布等を行い患者増に努めた。また、病診連携・患者増対策専門委員会で患者増や増収に繋がる対策を検討した。11 月にソーシャルワーカーを採用し、当院宛紹介状・封筒・当院周辺の地図を紹介元へ郵送（約 100 件）、近隣医院から紹介状郵送依頼はソーシャルワーカーが直接持参し、顔の見える連携を促進した。他院へ入院依頼した

病院へは適宜訪問することで協力体制をアピールし紹介患者増に繋げる活動を行った。目標値である外来患者数1日700人、入院患者数1日45人には達しなかったが、患者数は外来579.7人（平成22年度566.7人）で3.1%増、入院28.8人（平成22年度29.4人）で1.9%減となった。

#### (4) 歯科医師臨床研修

平成23年度歯科医師臨床研修は、63名（複合型研修プログラム54名、単独型研修プログラム9名）が研修を行い、平成24年3月30日には63名に修了証が授与された。

歯科医師臨床研修の指導歯科医講習会（案）を作成した。開催は平成24年7月を予定している。

研修歯科医の研修と指導は、月1回のペースで臨床実習実務担当者会、臨床研修委員会を開催し、臨床研修の進行状況を把握、研修の充実とポートフォリオ・週誌・日誌の確認を行った。また、臨床研修の評価基準の施設間の平準化を図るために評価マニュアルを作成し、次年度より活用する。

この他、協力型臨床研修施設の定期訪問を行い、指導環境や施設基準の確認、問題点の指導を行うとともに、医療安全に関する講習会を開催するなど、協力型臨床研修施設に対し管理型臨床研修施設として管理した。

#### (5) 診療責任体制の整備・確立

診療の責任体制は診療科長、副科長を定め責任を明確にしており、新患の診察は教授が担当している。病院長を中心に医療事故防止対策委員会・院内感染防止対策委員会において医療事故・ヒヤリハット分析340件（平成22年度372件）を報告し、問題点の共通認識と問題解決策の検討等を実施した。

#### (6) サービスの向上

患者のご意見や医療相談室に寄せられた相談116件（平成22年度98件）について、医療相談室が対応してより良い対応策・改善案を提案したほか、患者サービス・マナー向上委員会において、更なる向上を図った。

#### (7) 情報公開

平成23年度は診療録等の開示要求が17件あり、個人情報保護管理委員会で審議した結果、全件開示した。その他、病院ホームページで、患者の皆様に向けて、耳寄りな話、診療Q&A等の情報を随時更新し提供するとともに、医療関係者に向けて病診連携に関する情報提供を行った。

#### (8) 土曜診療の充実

土曜日の1日患者数平均は歯科78.6人（平成22年度74.8人）医科26.6人（平成22年度25.8人）、合計105.2人（平成22年度100.6人）であり、4.6%増となった。

#### (9) 新病院建設に向けた計画策定

病院将来構想検討委員会の各専門委員会（診療科改組・臨床教員充実、臨床研修・実習充実、病診連携・患者増対策、病床増対策）で、口腔医学の確立に向けた診療科の整備、医科・歯科連携診療部門の策定及び病床増等を含めた将来構想について継続的に検討した。

#### (10) クリティカルパスの見直し

質の高い医療提供のため、クリティカルパス委員会で見直しを実施した。

#### (11) 施設整備

病棟ナースコールシステムを12月に更新した。

## 2) 口腔医療センター

歯科医学の教育研究、歯科医師の資質向上、病診連携、地域の歯科医療への貢献等を推進するため、12月14日、博多駅前（日本生命博多駅前ビル1階）に「福岡歯科大学口腔医療センター」を開設した。同センターでは松浦センター長、米田教授、古賀教授等、専門医、指導医資格を持った専任教員が、歯科大学附属施設ならではの最新技術と設備を備え、質の高い思いやりのある医療を提供している。また、博多駅前という利便性を活かして、歯科医師等を対象とした様々な生涯研修を開催し、口腔医療人材の育成や最新の医療情報の発信基地としての役割を果たしている。今後は、研修歯科医や口腔保健衛生学専攻生の研修施設としての役割も期待されている。

センターには上記専任教員のほか、歯科衛生士5名、歯科技工士1名、放射線技師1名等を配置し、歯科診療台17台、手術台2台、CT、パノラマエックス線撮影装置等を設置している。

## 3) 介護老人保健施設

開設して10年目を迎え（平成14年8月開設）、「笑顔・優しさ・思いやり」という施設スローガンを掲げ、利用者には選ばれる魅力ある施設として居宅介護支援事業所及び地元公民館等の協力を得て利用者拡大を図ったが、施設利用者数等は表9のとおりとなった。

表9 サンシャインシティ施設利用者数等

利用者(定員)	年間利用延数(人)	稼働率(%)	対前年比	1日当たり平均(人)
入所者(85人)	29,657	95.3	0.2%減	81.0
通所(40人)	5,291	44.7	1.5%減	17.9

また、教育施設として福岡歯科大学及び福岡医療短期大学はもとより近隣の福岡大学の医学部及び看護学科の実習並び福岡女子高等学校の生徒等の実習施設として、延べ1,572名を対象に福祉実習、登院実習、ヘルパー2級資格実習、口腔介護実習等を実施した。

なお、地域協力として、月1回の公園清掃への参加と参加者への体操指導及び公民館行事への講師派遣を実施した。

## 4) 地域貢献

### (1) 大学連携事業

①「地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会」（中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学）においては、昨年度に引き続き3大学間で大学院学位審査委員を委嘱して3件の審査を実施した。また、10月に本学において「子どもの食と健康」をテーマに3大学主催の合同シンポジウムを開催した。この他、教養系科目の平成24年度相互開放に向けての取組みや新たに地域連携ワーキンググループ設置準備委員会を設置し、安全・安心なまちづくりについての検討を行った。

②「西部地区五大学連携懇話会」（九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学）においては、平成21年度に締結した「単位互換に関する覚書」に基づき単位互換科目を設定するとともに、昨年度に引き続き、五大学共同開講授業科目「博多学」を開講した。

③「4大学歯学部交流会」（北海道医療大学、岩手医科大学及び昭和大学の各歯学部、福岡歯科大学）においては、第9回の交流会を9月30日に昭和大学を当番校として開催し、「診療参加型臨床実習の取り組み状況と今後の展望について」をテーマとして討議、情

報交換を行った。

- ④ 平成 21 年 6 月に設立された「大学ネットワークふくおか」（本学を含む福岡都市圏 21 大学と福岡市、福岡商工会議所）においては、パンフレットやホームページ等の広報事業及び学生イベント等について協議を行った。
- ⑤ 「九州地域大学教育改善 F D ・ S D ネットワーク (Q-Links)」(発足当初の参画大学：九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡女子大学、福岡歯科大学) の運営に参画するとともに、Q-Links 企画の「Q-L a b C D プロジェクト」に職員 1 名を参加させ、カリキュラム作成のノウハウを研修させた。また、平成 24 年 2 月開催の「Q-Conference2011」には、ポスターセッションとして、口腔医学の現状に係るポスターを出展し、教員 6 名、職員 3 名が参加し、他大学参加者との交流等を深めた。

## (2) 公開講座等

本学園では、歯科医師、歯科衛生士、介護福祉士を養成し、キャンパス内に医科歯科総合病院、介護老人保健施設を設置しているという特色を生かし、超高齢社会における大学の地域貢献のモデルづくり等を目指し、地域貢献 (別表 8)、公開講座等 (別表 9) を展開した。

また、福岡歯科大学では歯科医師等の生涯学習を支援するため、大学キャンパスでは「口腔インプラント初級講習会」、「インプラントセミナー 2011」を、平成 23 年 12 月にオープンした博多駅前の口腔医療センターではオープン記念セミナーとして「口腔外科・全身管理・画像診断学 講習会」(全 5 回)、「保存・歯周治療の基本と応用」(全 3 回)を実施し、それぞれ約 20 名の受講者が参加した。今後も同センターを活用して、歯科医師等の生涯学習支援を継続する予定である。

福岡医療短期大学ではリカレント教育として、文部科学省の委託を受け平成 21・22 年度に実施した「歯科衛生士の口腔機能向上スキルアップ講座」の経験を踏まえ、歯科衛生士並びに歯科医師の口腔介護のスキルアップを目的として、平成 23 年度より新たに歯科衛生士ならびに歯科医師を対象とする「口腔介護スキルアップ講座」(5 回コース)に改変し実施した。プログラムは口腔ケア及び口腔機能向上の専門的講義と受講者相互による演習により構成した。5 回の受講者は延べ 212 名で、そのうち全回出席した 25 名(歯科医師 5 名、歯科衛生士 23 名)に修了証が授与された。

## 5) 国際交流

### (1) 大学間交流等

#### ① 福岡歯科大学

##### (ア) ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)との交流

ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)と締結した提携協定に基づき、4月9日から2週間、松浦准教授、米田准教授の引率のもと、学生4名が同大学歯学部学生交換プログラムに初めて参加した。10月には同大学のShah教授が本学を訪れ、田中理事長、北村学長と今後の学生の相互交流、教員の交流、研究の推進等について協議した。この協議に基づき、翌年1月に内藤准教授が同大を訪問し、Research Day審査員及び学術研究協力提携をShah教授等と検討した。

##### (イ) 上海交通大学(中国)との交流

9月に蔣 偉文教授ら教員3名と学生5名が本学を訪れ、同教授による講演や保存科、

口腔外科等の病院実習等を行った。

(ウ) 慶熙大学（韓国）との交流

10月に尾崎教授ら教員2名と学生4名が慶熙大学を訪問し、歯学部附属病院のほぼ全科の視察や臨床講義を受講した。併せて同時期に北村学長、谷口(邦)教授が同大学との交流をさらに緊密にするための協定の見直しを行った。翌年1月にはChoi, Kyoung Kyu教授ら教員2名と学生4名が本学を訪れ、相互交流を行った。

(エ) ヤンゴン歯科大学（ミャンマー）との交流

12月に本学とヤンゴン歯科大学との姉妹協定に基づく学術交流の一環として、福岡歯科大学医療チームとして大関教授ら医療スタッフ5名を派遣し、同大学と共同で口唇口蓋裂等の医療活動を実施した。また、同大学長、教授会メンバー等と「口腔癌の疫学」に関する共同研究や今後の交流について協議した。

(オ) 南カリフォルニア大学等との交流

国際交流委員会において南カリフォルニア大学や欧州の大学との交流を模索した。

(カ) 私費外国人留学生

大学院生1名（中国）を私費外国人留学生として受け入れ、授業料を「私費外国人留学生授業料減免規則」に基づき減免（30%）した。

② 福岡医療短期大学

11月22日～24日に歯科衛生学科の3学年の24名が学生相互の交流のために姉妹校である東釜山大学を訪問した。

(2) 海外研修派遣

研究の国際化を図るため、福岡歯科大学では延べ36名の教職員及び大学院生を海外研修派遣した（別表10）。その他、第1種研修派遣（1年以上1年以内の海外派遣）としてフライブルグ大学（ドイツ）に泉講師を、上海交通大学口腔医学院（中国）に白石助教を派遣した。また、福岡医療短期大学では5名の教員を海外研修派遣した（別表10）。

## 5. 組織運営の改善・効率化等について

### 1) 組織運営の改善

#### (1) 組織規程等の改正等

口腔医療センター設置に伴い、学園組織として同センター及びセンター長並びにセンター事務課を置くこと等を第442回理事会（平成23年10月開催）で決定した。併せて、「福岡歯科大学口腔医療センター規程」を制定、同規程に基づきセンターの管理運営の基本方針を審議するセンター管理委員会を毎月開催している。

#### (2) 国家公務員準拠の給与改定等

国家公務員に準拠し、人事院勧告に基づく俸給月額の下引等を行うとともに、平成24年4月1日現在で36歳未満の者に対し、平成19年から21年度の抑制分の昇給回復措置を行うことを決定した。また、「非常勤講師手当細則」の改正を行い、非常勤講師の手当額を講義・演習と実習に区分した。これに伴い、平成24年度から臨床教員については実習に係る手当額を支給することとした。

#### (3) 就業規程、給与規程等の改正スケジュール

柔軟な人事、勤務制度の確立に向けての就業規程改正、業績評価の処遇への反映に向けての給与規程改正スケジュール等を常任役員会で決定し、平成25年度からの実施を

目指すこととした。

(4) 管理職任期制の検討

有能な人材に管理職登用の道を開き、経営目標の達成に柔軟かつ適切に対応できる事務組織整備のための「管理職の任期に関する規程」骨子案に基づき、平成 25 年度からの実施を目指し、今後検討を進めることとした。

(5) 行動指針の作成

創立 40 周年を迎えるにあたり、事務職員、管理職が各々共通の意思と使命をもって臨み、学園の更なる発展、充実を期すため、事務職員及び管理職の行動指針を策定し、実行することとした。

(6) 事務処理の合理化・効率化のため、事務組織の見直し等

- ① 事務組織の見直しの一環として 4 月から財務課の出納係を財務係と統合し、業務区分の再編を行い、1 名を削減した。
- ② 有形固定資産の取得価格は、1 個又は 1 組が 10 万円以上となっていたが、管理業務等の効率化を図るため、平成 23 年度から 50 万円以上に変更し、備品等固定資産の管理及び調達に係る業務時間の削減を行った。
- ③ 調達請求の Web システムを導入し、発生源入力による業務時間の削減、また、Web 上で予算執行状況の確認が可能となり、ペーパーレス化によるコスト削減を図った。
- ④ 現金出納業務の省力化を図るため、平成 24 年 2 月から教職員に対する旅費等の支払いを従来の財務課窓口での現金払いから、インターネットバンキングを利用した銀行振込に移行した。受領者の利便性の向上及び銀行振込手数料の削減にも繋がった。

(7) 理事、評議員、大学長の改選等

- ① 学校法人福岡学園の理事、監事、評議員の任期が 8 月 2 日で満了となることに伴い、第 136 回評議員会及び第 439 回理事会（平成 23 年 7 月開催）において、新法人役員、評議員を可決した。任期は平成 23 年 8 月 3 日から平成 26 年 8 月 2 日までの 3 年間。また、第 440 回理事会（平成 23 年 8 月開催）において、理事長に田中健藏理事長を再任、常務理事として新たに水田祥代理事を選任し、また本田武司常務理事の再任を可決した。なお、青野一哉常務理事は任期満了により退任した。
- ② 第 444 回理事会（平成 23 年 12 月開催）において、平成 24 年 2 月 1 日付けで福岡歯科大学長に北村憲司学長の再任を可決した。

(8) 柔軟で多様な人事制度と人材育成等

① 任期制教員の再任

「学校法人福岡学園教員の任期に関する規程」に基づき任期満了となる教員（大学・教授 5 名、准教授 1 名、講師 3 名、助教 5 名）（短大・准教授 1 名、講師 1 名）の再任審議を教員評価委員会が行い、再任申請者全員を再任することとした。

② 再雇用

定年後の継続雇用制度導入に係る「学校法人福岡学園定年再雇用規程」に基づき事務職 1 名を再雇用した。

③ 補助職員細則の見直し

労働契約法の改正に先行し補助職員の有期契約の最長年限を 5 年とするため、「補助職員細則」の見直しを行った。



#### ④ 採用者等への学長講話

教職員全員が学園の目指している方向等を理解し、共通認識のもとに業務にあたり、学園目標の達成を図ることを目的として、11月から採用・再任の辞令交付後に、学園概要、中期構想、事業計画等を説明するとともに、教職員としてのあるべき姿勢等について北村学長等による講話を開始した。

#### ⑤ 教員の目標シートの変更等

教員の業績評価等の資料となる教育、研究等の実績表について、量から質への評価への転換及び記載の簡素化のため様式を見直し、平成24年人事考課から活用することとした。併せて、中期構想の改定に伴い、教員の目標シート（大学・短大）を変更した。

#### ⑥ 人材育成

事務職員等の資質向上を目指し、学外の各種研修会への参加を促進し、事務職員等延べ67名が能力向上セミナー、資格講習会等に参加した（別表11）。学内では、業務改善等に向け階層別等の研修を行った（別表12）。また、戦略的大学連携支援事業として、連携大学間で職員の短期研修派遣を行い、鶴見大学及び神奈川歯科大学に各1名を3日間派遣する一方、両大学から各1名の派遣を受け入れ、連携大学間の相互理解を深めた（別表13）。この他、西部地区五大学連携懇話会の職員研修「ファシリテーション基礎研修」等に事務職員等6名が参加した（別表14）。

#### ⑦ 人事・労務情報交換会への参加

近郊大学の人事担当者による第1回人事・労務情報交換会が、11月に西南学院大学にて開催され、近郊7大学の人事担当者と人事・労務等に関する諸事項について情報交換等を行った。

### 2) 財政基盤の確保

#### (1) 外部資金獲得

福岡歯科大学は、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に係る研究費補助金として33,996千円（先端科学研究：19,708千円、再生医学研究：14,288千円）の助成を受けた。また、大学改革推進等補助金として大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）8,000千円の助成を受けた。この他、私立大学等研究設備整備費等補助金4,852千円（デジタル教材のインタラクティブ学習システム）の助成を受けた。

福岡医療短期大学は、大学改革推進等補助金として、大学生の就業力育成支援事業16,800千円、また、福岡県福祉・介護人材確保臨時対策事業として9,063千円の助成を受けた。

#### (2) 税額控除対象法人の証明取得に係る寄附金募集

平成23年度の税制改正により、学校法人に対する個人寄附者に対し、小口の寄附金支出者への減税効果が高いとされる税額控除制度が導入された。本制度の適用を受けるには一定の要件（過去2年間で、3,000円以上の寄附者が年平均100人以上いること）を充たす必要があることから、12月から学内教職員を対象に寄附を募り、平成24年3月末までに目標を上回る288件の寄附を集めた。

#### (3) 資産運用による収入確保及び経費節減

特定資産等の運用収入は785,831千円でほぼ前年度並みの水準であったが、厳しい経済情勢のなか、一定規模での収入を安定的に確保することができた。一方、支出については、引き続き人件費および管理経費のコスト削減に取り組み、不要不急の支出は厳しく抑制し

効率的な予算執行を行った。

(4) 学生納付金の見直し

学費負担者の初年度の経済的負担を軽減するため、平成 24 年度入学生より入学時一括納付としていた教育充実資金 440 万円を 6 年間の分割納付とし、併せて、入学検定料の引き下げを行った。

(5) 学園駐車場利用料の改定

駐車場使用に係る収支および他大学の状況を勘案し、平成 23 年度から教職員等の駐車場使用料を月額 1,500 円から 2,000 円に改定した。

(6) エネルギー使用量の削減

冷房期間の電力使用を抑えるため、病院チラーの室外機に散水を行う装置を作製し、病院屋上チラー室外機置き場に設置するなど、全学的に節電に取り組んだ結果、平成 23 年度のエネルギー使用量は前年度比で、電力 5.6%減、ガス使用量 8.7%減となった。

(7) 干限用地の有効利用

平成 6 年 8 月から外部に貸与を行ってきた干限用地について、平成 24 年 7 月末をもって賃貸借契約が終了することに伴い、8 月以降の用地活用について、引き続き駐車場としての利用や介護等に係る実習施設の建設等の検討を行った。

3) 自己点検評価

(1) 福岡歯科大学は、改善・改革を継続、推進するため、自己点検・評価報告書（福岡歯科大学の現状と課題 08,09 年版）で、改善すべき事項としてあげられた項目に関する平成 22 年度の改善実績を「福岡歯科大学の現状と課題 2010 改善報告書」として 11 月にまとめホームページ等で公表した。また、25 年度の認証評価に向けた、スケジュールを自己点検・評価委員会でまとめ、常任役員会の了解を得た。

(2) 福岡医療短期大学は、平成 23 年 3 月に自己点検・評価報告書「福岡医療短期大学 歯科衛生学科・保健福祉学科の現状と課題（2007～2009 年度）」を発刊した。また、2 回目となる認証評価を平成 26 年度に短期大学基準協会から受ける予定である。

4) 広報・情報公開

(1) 学園ホームページの充実等

ホームページの充実について検討を行い、大学のトップページのリニューアルとともにサイトマップを整備した。

また、口腔医療センターの広報としてホームページを新たに開設したほか、新聞、雑誌等への開院告知を展開し、設立趣旨や事業内容等の情報発信を積極的に行った。

(2) 情報公開

教育情報の公開については、入学者の推移、収容定員充足率、専任教員比率等の 15 項目を追加するなど、教育研究活動に関する情報や修学上の情報等についてインターネット上のホームページで積極的に公開した。財務情報については、学園の利害関係者（在学生、保護者、教職員等）から請求があった場合の対応として、財務課に設置している財務書類及び事業報告書を閲覧に供している。また、学園広報誌「ニューソフィア」に掲載するほか、ホームページで一般の方にも内容が分かるようグラフや解説付きで積極的に公開した。

5) 情報化の推進

(1) 情報化組織および運営体制の整備・充実

① 各種情報システムの「管理・運用を中心とした運営体制」について検討し、「全学園的

な情報化推進体制の在り方について」を取りまとめ、教育情報システム、医療情報システム（HIS）及び情報基盤システムの管理運用に係る各作業部会を設置し対応することとした。

② 事務情報の共有化及び事務サービスの向上を促進するため、事務情報の「事務局共有化と電子キャビネット化」のためのNAS（ネット型ディスク共有システム）に加え、平成24年1月より「可視化と提供サービス」を行うグループウェアの全学活用に先駆けて、事務局で試行運用を開始した。

③ 不正アクセス等から学園の情報資産を守り、安全・安心な情報ネットワーク環境を維持するための「福岡学園情報セキュリティポリシー」を策定した。

## （2）医療情報システム（HIS）の充実および安定的な運用

病院情報システム作業部会で検討し、マスタ管理、機器管理、システム管理、HIS 運営・教育の責任者と対応窓口を決定した。また、次期システムについては継続して検討を行った。

## 6）安全管理および法令遵守

### （1）セクシュアル・ハラスメント対策

① ハラスメント防止のため、広島大学ハラスメント相談室の横山教授を招聘し、ハラスメント相談員研修会及びハラスメント講演会を開催した。併せて、ハラスメント防止に係る相談体制強化のため、相談員等を5月、7月、2月にハラスメントに係る学外研修に派遣するとともに、派遣者を講師としたハラスメント相談員研修会を実施した。

② 学園におけるハラスメント防止体制の強化のため、9月に「学校法人福岡学園ハラスメント防止規則」の改正を行うとともに、「ハラスメント防止ガイドライン」を作成、ハラスメント相談員、大学・短大助言教員等及び教職員への説明会時に配付した。

### （2）科研費の適正管理

文部科学省が定めた「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づき、12月に平成22年度交付の科学研究費補助金を対象に本学園監事による内部監査を前年に引き続き実施した。

## 6. その他

### 1）法人名変更に伴う寄附行為変更認可

歯科医学教育をはじめ医療、保健、福祉の発展に寄与する総合学園としての名称に変更するため、第133回評議員会及び第435回理事会（平成23年3月開催）等の議を経て文部科学省に行った寄附行為変更の認可申請について、6月7日付けで認可を受けた。

### 2）東日本大震災への支援

募金活動を行い、総額923,264円を東日本大震災災害義援金として日本赤十字社に送金した。また、日本歯科医師会の要請に基づき、7月3日から11日までの間、廣藤教授ら4名の医療チームを宮城県南三陸町に派遣し、小・中学校や避難所を訪問して被災者の歯科医療救護活動を行ったほか、仮設住宅での歯科相談に応じた。

### Ⅲ. 財務の概要

#### 1. 資金収支の状況

平成 23 年度資金収支計算書の収入額は 124 億 4,190 万 9 千円で、前年度からの繰越支払資金 8 億 1,245 万 7 千円を加えると、収入合計は 132 億 5,436 万 6 千円である。支出額は 127 億 354 万 8 千円となり、次年度繰越支払資金は 5 億 5,081 万 8 千円であった。(別表 15)

#### 2. 消費収支の状況

平成 23 年度消費収支計算書の帰属収入合計額は 69 億 4,817 万 2 千円で、口腔医療センター取得に係る工事費及び機器備品取得費等として第 1 号基本金に 4 億 4,165 万 9 千円、第 2 号基本金引当資産へ 2 億 2,200 万 9 千円及び教育研究基金等の第 3 号基本金引当資産に 15 億 2,251 万円を組入れたため、基本金組入額を差引いた消費収入の部合計額は 47 億 6,199 万 4 千円である。消費支出の部合計額は 53 億 8,810 万 6 千円で、差引 6 億 2,611 万 2 千円の当年度支出超過となり、前年度からの繰越消費収入超過額 36 億 6,204 万円と基本金取崩額 7,035 万 5 千円を加えた翌年度繰越消費収入超過額は 31 億 628 万 3 千円であった。(別表 16)

#### 3. 貸借対照表

平成 23 年度末(平成 24 年 3 月 31 日)現在の貸借対照表資産の部合計額は、573 億 9,193 万 9 千円で、負債の部合計額 26 億 6,959 万 9 千円を差引いた正味財産は、547 億 2,234 万円となり、22 年度に比べ 15 億 6,006 万 6 千円の増であった。(別表 17)

#### 4. 財務比率表

財務比率表の内、貸借対照表関係の総負債比率は、平成 23 年度末で 4.7%であった。消費収支計算書関係では、人件費比率 46.8%、教育研究経費比率 27.0%、管理経費比率 3.5%であった。(別表 18)

#### 5. 資産運用収入

平成 23 年度の資産運用収入は 7 億 3,660 万 7 千円(施設設備利用料及び短期運用収入等を除く)で、前年度比 140 万 5 千円の減となり、運用可能資産(特定資産等)に対する利回りは約 1.63%であった。

#### 6. 基本金組入れ

病院建設等資金としての第 2 号基本金引当資産は、組入計画に基づき平成 23 年度に 6 億円の組入れを行うとともに、口腔医療センター取得に要した 3 億 7,799 万 1 千円(設置工事費:1 億 8,601 万 8 千円、教育研究用機器備品費 1 億 5,068 万 4 千円、敷金 4,128 万 9 千円)について第 2 号基本金から第 1 号基本金に振替を行ったため、当期組入高は、2 億 2,200 万 9 千円であった。また、福岡歯科大学教育研究基金は、組入計画に基づき、平成 23 年度に 15 億円を組入れた。

## 7. 経年比較

資金収支総括表、消費収支総括表、貸借対照表、財務比率表の経年比較（5年間）及び帰属収入・消費支出構成比率表（別表19）、年度別推移表（別表20）を添付した。いずれも特に問題なく順調に推移した。

別表 1 先端科学研究センター 計画研究の分担研究者

氏名	職名	分担課題
関口 睦夫	先端科学研究センター・教授	ゲノム安定性と発がんの抑制
谷口 邦久	病態構造学・教授	口腔腫瘍転移におけるセンチネルリンパ節のリンパ管動態
日高 真純	分子機能制御学・教授	発がんを抑えるアポトーシスの機構
早川 浩	生化学・教授	酸化ストレスと遺伝子発現
池邊 哲郎	口腔外科学・教授	環境因子の遺伝子系への作用ー口腔がん化における DNA 酸化とその抑制因子についての研究ー
梅津 桂子	生化学・教授	遺伝子安定性における組換えの役割
沢 禎彦	機能構造学・教授	環境ストレスに対する免疫応答
岡部 幸司	細胞生理学・教授	疾患の制御における骨代謝
佐藤 博信	冠橋義歯学・教授	顎骨の加齢的变化ーI 型コラーゲンの動態ー
大星 博明	内科学・教授	環境ストレスに対する細胞の応答
坂上 竜資	歯周病学・教授	組織再生環境におけるゲノムワイドな遺伝子発現の安定性
廣藤 卓雄	総合歯科学・教授	細菌感染と口腔疾患

## 別表2 先端科学研究センター 公募研究の分担研究者

氏名	職名	分担課題
伊東 理世子	生化学・講師	酸化損傷を持つRNAを排除する機能を持つタンパク質の同定
大久保 つや子	分子機能制御学・准教授	T型カルシウムチャンネルCav3.1による腫瘍細胞増殖の制御
岡 暁子	成育小児歯科学・講師	軟口蓋組織に特徴的に発現する遺伝子の探索
久留島 秀朗	内科学・助教	血管部位別の特徴とTPRCファミリーの組成に関する研究
高木 康光	先端科学研究センター・准教授	DNAの酸化損傷を抑制するMTH2蛋白質の機能解析
敦賀 英知	機能構造学・准教授	オキシタラン繊維の形成機構
徳本 正憲	内科学・准教授	血管石灰化退縮機構の解明
林 道夫	生化学・助教	ゲノムの安定な維持に関与するヘリカーゼの体系的な解析－酵母 <i>Saccharomyces cerevisiae</i> を用いて
藤兼 亮輔	分子機能制御学・助教	DNAアルキル化損傷に応答するアポトーシスの分子機構の解明
大城 希美子	歯周病学・助教	歯周病起炎物質による破骨細胞のイオン輸送と分化調節機構の解明
八田 光世	分子機能制御学・講師	上皮組織エピジェネティック・コードの解明

## 別表3 再生医学研究センター 平成22年度研究成果報告会プログラム

平成23年5月31日（火）13:00-19:00

福岡歯科大学 本館504講義室

13:00-13:10	挨拶
13:10-13:30	「炭酸アパタイト系骨補填材の創製」 松家 茂樹（歯科医療工学講座生体工学分野）
13:30-13:50	「DNA/プロタミン複合体の基礎的性質と骨形成能」 福島 忠男（再生医学研究センター）
13:50-14:10	「分子ヒーターによる生体調和型温熱治療デバイスの創製」 川口 稔（歯科医療工学講座材料工学分野）
14:10-14:30	「光熱転換物質を利用した骨再生部位における 抗真菌薬のDDS開発」 長 環（機能生物化学講座感染生物学分野）
14:30-14:50	休憩
14:50-15:10	「抗菌剤オフロキサシンの新生骨形成メカニズムの解明」 阿南 壽（口腔治療学講座歯科保存学分野）
15:10-15:30	「Bioactive glass (BAG)の頭頂骨欠損部への応用」 泉 利雄（口腔治療学講座歯科保存学分野）
15:30-15:50	「象牙質-歯髄複合体再生療法の確立を目的とした 歯髄細胞の熱耐性能誘導機構の解析」 諸富 孝彦（口腔治療学講座歯科保存学分野）
15:50-16:10	「レーザー処理によるジルコニアインプラントの 表面処理は骨結合を強化する」 城戸 寛史（咬合修復学講座口腔インプラント学分野）
16:10-16:30	「カーボンナノチューブによる骨再生能への効果と その作用機序の解明」 鍛冶屋 浩（細胞分子生物学講座細胞生理学分野）
16:30-16:50	休憩
16:50-17:10	「口蓋発生における Tenascin C 蛋白発現について」 岡 暁子（生体構造学講座機能構造学分野）
17:10-17:30	「アメロジェニン遺伝子欠損マウスにおける セメント質吸収亢進過程に関する検討」 畠山 雄次（生体構造学講座機能構造学分野）
17:30-17:50	「高齢者への骨補填剤としてのサケ白子由来 DNA/プロタミン複合体の可能性」 岩橋 輝明（生体構造学講座病態構造学分野）



17 : 50—18 : 10	「機械的ストレス環境下におけるリンパ管内皮細胞の オキシタラン関連蛋白の産生」 沢 禎彦（生体構造学講座機能構造学分野）
18 : 10—18 : 30	「上皮の創傷治癒過程における claudin の発現動態と 細胞の運動性の解析」 稲井 哲一郎（生体構造学講座機能構造学分野）
18 : 30—18 : 50	「ストロンチウム含有炭酸アパタイト系骨置換材の創製 -試作 Sr 含有炭酸アパタイト系骨補填材の合成と強度 および表面微細構造について-」 何 陽介（歯科医療工学講座生体工学分野）
閉会の挨拶	

## 別表4 平成23年度第2回再生医学研究センターシンポジウム

日時：平成24年1月26日（木）14：00～16：10

場所：福岡歯科大学504講義室

司会：稲井 哲一郎 教授

（生体構造学講座機能構造学分野）

<プログラム>

開会の辞 松家 茂樹 再生医学研究センター長

14：00－14：10

田中 健藏 理事長 挨拶

座長：阿南 壽 教授

14：10－15：10

（口腔治療学講座歯科保存学分野）

「歯の銀行と再生医療から口腔医学へ」

広島大学医歯薬学総合研究科

河田 俊嗣 准教授

座長：福島 忠男 教授

15：10－16：10

（再生医学研究センター）

「再生医療本格化のための細胞シート工学」

東京女子医科大学 先端生命医科学研究所

大和 雅之 教授

閉会の辞 福島 忠男 再生医学研究センター教授

# 別表5 平成23年度 科学研究費補助金決定状況

【福岡歯科大学】

(単位：千円)

区 分 種 類	平成22年度						平成23年度						前年度比較増減(H23-H22)					
	申請 件数	申請額	内定 件数	内定額		計	申請 件数	申請額	内定 件数	内定額		計	申請 件数	申請額	内定 件数	内定額		
				直接経費	間接経費					直接経費	間接経費					直接経費	間接経費	
文 部 科 学 省	新 規	0	0	0	0	0	2	31,250	0	0	0	2	31,250	0	0	0	0	
	繼 続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	新 規	1	4,000	0	0	0	0	0	0	0	0	-1	-4,000	0	0	0	0	
	繼 続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	新 規	1	4,134	0	0	0	1	1,700	0	0	0	0	0	-2,434	0	0	0	0
	繼 続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新 規	65	130,029	3	5,800	1,740	58	119,028	10	15,000	4,500	19,500	-7	-11,001	7	9,200	2,760	11,960
	繼 続	6	5,900	6	6,700	2,010	5	4,100	5	4,100	1,230	5,330	-1	-1,800	-1	-2,600	-780	-3,380
	新 規	67	138,163	3	5,800	1,740	61	151,978	10	15,000	4,500	19,500	-6	13,815	7	9,200	2,760	11,960
	繼 続	6	5,900	6	6,700	2,010	5	4,100	5	4,100	1,230	5,330	-1	-1,800	-1	-2,600	-780	-3,380
小 計	73	144,063	9	12,500	3,750	66	156,078	15	19,100	5,730	24,830	-7	12,015	6	6,600	1,980	8,580	
日 本 学 術 振 興 会	新 規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	繼 続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	新 規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	繼 続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	新 規	10	71,802	2	12,800	3,840	12	86,639	2	11,100	3,330	14,430	2	14,837	0	-1,700	-510	-2,210
	繼 続	4	10,400	4	10,400	3,120	4	10,000	4	10,000	3,000	13,000	0	-400	0	-400	-120	-520
	新 規	41	80,588	4	5,500	1,650	39	76,087	9	16,200	4,860	21,060	-2	-4,501	5	10,700	3,210	13,910
	繼 続	22	19,000	24	21,100	6,330	18	13,800	18	13,800	4,140	17,940	-4	-5,200	-6	-7,300	-2,190	-9,490
	新 規	20	41,902	1	1,200	0	18	37,782	2	2,900	870	3,770	-2	-4,120	1	1,700	870	2,570
	繼 続	2	2,400	2	2,400	0	1	800	1	800	240	1,040	-1	-1,600	-1	-1,600	240	-1,360
新 規	3	3,618	0	0	0	8	10,790	2	2,600	780	3,380	5	7,172	2	2,600	780	3,380	
繼 続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
新 規	74	197,910	7	19,500	5,490	77	211,298	15	32,800	9,840	42,640	3	13,388	8	13,300	4,350	17,650	
繼 続	28	31,800	30	33,900	9,450	23	24,600	23	24,600	7,380	31,980	-5	-7,200	-7	-9,300	-2,070	-11,370	
学 振 合 計	102	229,710	37	53,400	14,940	100	235,898	38	57,400	17,220	74,620	-2	6,188	1	4,000	2,280	6,280	
新 規	141	336,073	10	25,300	7,230	138	363,276	25	47,800	14,340	62,140	-3	27,203	15	22,500	7,110	29,610	
繼 続	34	37,700	36	40,600	11,460	28	28,700	28	28,700	8,610	37,310	-6	-9,000	-8	-11,900	-2,850	-14,750	
合 計	175	373,773	46	65,900	18,690	166	391,976	53	76,500	22,950	99,450	-9	18,203	7	10,600	4,260	14,860	

# 別表6 平成23年度 科学研究費補助金決定状況

【福岡医療短期大学】

(単位：千円)

区分 種類	平成22年度					平成23年度					前年度比較増減(H23-H22)				
	申請 件数	申請額	内定 件数	内定額		申請 件数	申請額	内定 件数	内定額		申請 件数	申請額	内定 件数	内定額	
				直接経費	間接経費				直接経費	間接経費				直接経費	間接経費
特別推進研究	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定領域研究	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
若手研究(A)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
若手研究(B)	新規	3	2,280	0	0	0	4	7,320	0	0	1	5,040	0	0	0
	継続	1	1,000	1	1,300	1	1,200	1	1,200	1	200	0	200	60	260
小計	新規	3	2,280	0	0	4	7,320	0	0	1	5,040	0	0	0	0
	継続	1	1,000	1	1,300	1	1,200	1	1,200	0	200	0	200	60	260
文科省合計		4	3,280	1	1,300	5	8,520	1	1,200	1	5,240	0	200	60	260
基盤研究(S)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究(A)	新規	1	11,900	0	0	0	0	0	0	0	-1	-11,900	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究(B)	新規	1	2,719	0	0	0	0	0	0	0	-1	-2,719	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究(C)	新規	3	3,613	0	0	0	1	2,096	0	0	-2	-1,517	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
挑戦的 萌芽研究	新規	11	16,932	1	1,400	10	19,079	1	1,000	300	2,147	0	-400	300	-100
	継続	0	0	0	0	1	500	1	500	150	500	1	500	150	650
研究活動 スタ-ト支援	新規	0	0	0	0	1	2,901	0	0	0	1	2,901	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	新規	16	35,164	1	1,400	12	24,076	1	1,000	300	-4	-11,088	0	-400	300
	継続	0	0	0	0	1	500	1	500	150	500	1	500	150	650
学振合計		16	35,164	1	1,400	13	24,576	2	1,500	450	-3	-10,588	1	100	450
合計	新規	19	37,444	1	1,400	16	31,396	1	1,000	300	-3	-6,048	0	-400	300
	継続	1	1,000	1	1,300	2	1,700	2	1,700	510	1	700	1	700	210
総合計		20	38,444	2	2,700	18	33,096	3	2,700	810	-2	-5,348	1	300	510

# 別表7 平成23年度研究業績（欧文）一覽

[福岡歯科大学]

## 1.著書

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
総合歯科学	Relationship between oral malodor and oral microbiota	Suzuki N, Yoneda M, Hirofuji T	InTech			121-130	2012
口腔保健学	Effects of smoking and smoking cessation and smoking cessation intervention	Hanioka T, Ojima M, Nakamura M	InTech			107-128	2012
機能生物化学	Engineering unusual amino acids into peptides using lantibiotic synthetase.	Nagao J, Shioya K, Harada Y, Okuda K, Zendo T, Nakayama J, Sonomoto K	Methods Mol Biol.			225-236	2011
生体構造学	The coculture method to examine interactions between claudin isoforms in tight junction-free HEK293 cells and tight junction-bearing MDCK II cells.	Inai T	Methods Mol Biol			101-114	2011
口腔医療センター	Relationship between oral malodor and oral microbiota	Suzuki N, Yoneda M, Hirofuji T	InTech			121-130	2012

## 2.総説 (review含む)

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
総合歯科学	Direct composite buildup can be a treatment option to improve tooth shape irregularity.	Makino M, Naito T	J Evidence-Based Dental Practice.	11	3	149-150	2011
	Confusing endodontic cases: Case Series Report	Yoneda M, Suzuki N, M. Macedo S, Anan H, Hirofuji T	Smile Dental Journal	6	2	26-31	2011
口腔治療学	Confusing endodontic cases: Case Series Report	Yoneda M, Suzuki N, M. Macedo S, Anan H, Hirofuji T	Smile Dental Journal	6	2	26-31	2011
総合医学	Gene therapy as a novel pharmaceutical intervention for stroke	Ooboshi H	Current Pharmaceutical Design	17	5	424-433	2011
	Defective renal maintenance of the vitamin D endocrine system impairs vitamin D renoprotection: a downward spiral in kidney disease.	Dusso AS, Tokumoto M	Kidney Int.	79	7	715-729	2011
口腔保健学	Does secondhand smoke affect the development of dental caries in children? A systematic review.	Hanioka T, Ojima M, Tanaka K, Yamamoto M	Int J Environ Res Public Health.	8	5	1503-1519	2011
機能生物化学	Methodologies and strategies for the bioengineering of lantibiotics.	Nagao J, Nishie M, Sonomoto K	Curr Pharm Biotechnol.	12	8	1221-1230	2011
	Antibacterial peptides "bacteriocins": an overview of their diverse characteristics and applications.	Nishie M, Nagao J, Sonomoto K	Biocontrol Sci.	17	1	1-16	2012
口腔医療センター	Confusing endodontic cases: Case Series Report	Yoneda M, Suzuki N, M. Macedo S, Anan H, Hirofuji T	Smile Dental Journal	6	2	26-31	2011

## 3.原著

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
総合歯科学	Association between oral malodour and psychological characteristics in subjects with neurotic tendencies complaining of halitosis.	Suzuki N, Yoneda M, Naito T, Inamitsu T, Yamada K, Okada I, Hatano Y, Iwamoto T, Masuo Y, Fujimoto A, Hirofuji T	Int Dent J.	61	2	57-62	2011
	Enterococcus faecium WB2000 Inhibits biofilm formation by oral cariogenic streptococci.	Suzuki N, Yoneda M, Hatano Y, Iwamoto T, Masuo Y, Hirofuji T	Int J Dent.	2011		doi:10.1155/2011/834151	2011
	DNA amplification using phi29 DNA polymerase validates gene polymorphism analysis from buccal mucosa samples.	Taniguchi R, Masaki C, Murashima Y, Makino M, Kojo T, Nakamoto T, Hosokawa R	J Prosthodontic Res.	55	3	165-170	2011
	Involvement of suppressor of cytokine signaling-1 in globular adiponectin-induced granulocyte colony-stimulating factor in RAW 264 cell.	Fujimoto A, Akifusa S, Hirofuji T, Yamashita Y	Molecular Immunology.	48	15-16	2052-2058	2011

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
総合歯科学	Sleep bruxism needs deep sleep stages and seems to reduce psychological stress	Tomoeda K, Makino M, Masaki C, Moritsuchi Y, Tsuda T, Nakamoto T, Hosokawa R	International Journal of Stomatology & Occlusion Medicine	4	2	54-58	2011
	Salivary $\beta$ -galactosidase activity affects physiological oral malodour.	Masuo Y, Suzuki N, Yoneda M, Naito T, Hirofuji T	Archives of Oral Biology.	57	1	87-93	2012
	Discrimination of the oral microbiota associated with high hydrogen sulfide and methyl mercaptan production.	Takeshita T, Suzuki N, Nakano Y, Yasui M, Yoneda M, Shimazaki Y, Hirofuji T, Yamashita Y	Scientific Reports.	2	215	doi:10.1038/sr ep00215	2012
	Effects of oil drops containing Lactobacillus salivarius WB21 on periodontal health and oral microbiota producing volatile sulfur compounds	Suzuki N, Tanabe K, Takeshita T, Yoneda M, Iwamoto T, Oshiro S, Yamashita Y, Hirofuji T	J Breath Res.	6	1	Doi:10.1088/1752-7155/6/1/017106	2012
口腔治療学	Effects of heat stress and starvation on clonal odontoblast-like cells.	Morotomi T, Kitamura C, Toyono T, Okinaga T, Washio A, Saito N, Nishihara T, Terashita M, Anan H	J Endod.	37	7	955-961	2011
	DNA/protamine complex paste for an injectable dental material.	Fukushima T, Ohno J, Imayoshi R, Mori N, Sakagami R, Mitarai M, Hayakawa T	J Mater Sci Mater Med.	22	12	2607-2615	2011
	Possible involvement of smad signaling pathways in Induction of odontoblastic properties in KN-3 cells by bone morphogenetic protein-2: A growth factor to induce dentin regeneration	Washio A, Kitamura C, Morotomi T, Terashita M, Nishihara T	Int J Dent.			Article ID 258469	2011
	Activation of AMP-activated protein kinase by MAPO1 and FLCN induces apoptosis triggered by alkylated base mismatch in DNA.	Lim TH, Fujikane R, Sano S, Sakagami R, Nakatsu Y, Tsuzuki T, Sekiguchi M, Hidaka M	DNA Repair (Amst).	11	3	259-266	2012
	Antibodies against CIC7 inhibit extracellular acidification-induced $Cl^-$ currents and bone resorption activity in mouse	Ohgi K, Okamoto F, Kajiya H, Sakagami R, Okabe K	Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol	383	1	79-90	2011
咬合修復学	Effect of location of glass fiber-reinforced composite reinforcement on the flexural properties of a maxillary complete denture in vitro.	Takahashi Y, Yoshida K, Shimizu H	Acta Odontol Scand.	69	4	215-221	2011
	Mechanical properties of denture base resin cross-linked with methacrylated dendrimer.	Kawaguchi T, Lassila LV, Vallittu PK, Takahashi Y	Dent Mater.	27	8	755-761	2011
	Effect of embedded metal reinforcements and their location on the fracture resistance of acrylic resin complete dentures.	Yoshida K, Takahashi Y, Shimizu H	J Prosthodont.	20	5	366-371	2011
	Podocan-like protein: a novel small leucine-rich repeat matrix protein in bone.	Mochida Y, Kaku M, Yoshida K, Katafuchi M, Atsawasuwan P, Yamauchi M	Biochem Biophys Res Commun.	410	2	333-338	2011
	Influence of molecular weight of polymethyl(methacrylate) beads on the properties and structure of cross-linked denture base polymer.	Kawaguchi T, Lassila LV, Tokue I, Takahashi Y, Vallittu PK	J Mech Behav Biomed Mater.	4	8	1846-1851	2011
	Hyperocclusion stimulates osteoclastogenesis via CCL2 expression	Goto KT, Kajiya H, Nemoto T, Tsutsumi T, Tsuzuki T, Sato H, Okabe K	J Dent Res.	90	6	793-798	2011
	A novel proteolytic processing of prolysin oxidase.	Atsawasuwan P, Mochida Y, Katafuchi M, Tokutomi K, Mocanu V, Parker CE, Yamauchi M	Connect Tissue Res.	52	6	479-486	2011
	Dispersion stability and exothermic properties of DNA-functionalized single-walled carbon nanotubes	Kawaguchi M, Ohno J, Irie A, Fukushima T, Yamazaki J, Nakashima N	Int J Nanomed.	6		729-736	2011
	Human mandibular trabecular bone density correlation with mechanical strength: implications for implant dentistry.	Kido H, Schulz EE, Kakura K, Yamamoto K, Morinaga K, Matsuura M	Implant Dent.	20	4	323-326	2011
	Rat calvarial tissues response to flowable DNA/protamine complex mixtures with DNA/chitosan complex to be used as a protective membrane for guided bone regeneration	Shinozaki Y, Mori N, Ohno J, Kawaguchi M, Kido H, Hayakawa T, Fukushima T	J Oral Tissue Engin	9	3	159-166	2012
成長発達歯学	Growth differentiation factor 5 (GDF-5) induces matrix metalloproteinase 2 (MMP-2) expression in periodontal ligament cells and modulates MMP-2 and MMP-13 activity in osteoblasts	Hatakeyama Y, Hatakeyama J, Maruya Y, Oka K, Tsuruga E, Inai T, Sawa Y	Bone and Tissue Regeneration Insights	4		1-10	2011

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
成長発達歯学	Expression of podoplanin and classical cadherins in salivary gland epithelial cells of klotho-deficient mice.	Amano I, Imaizumi Y, Kaji C, Kojima H, Sawa Y	Acta Histochem Cytochem.	44	6	267-276	2011
	Fibrillin-1 and fibrillin-2 are essential for formation of thick oxytalan fibers in human nonpigmented ciliary epithelial cells in vitro.	Yamanouchi K, Tsuruga E, Oka K, Sawa Y, Ishikawa H	Connect Tissue Res.	53	1	14-20	2011
	Roles of collagen and periostin expression by cranial neural crest cells during soft palate development.	Oka K, Honda MJ, Tsuruga E, Hatakeyama Y, Isokawa K, Sawa Y	J Histochem Cytochem.	60	1	57-68	2012
	Preparation of Sr-containing carbonate apatite as a bone substitute and its property.	Sakai A, Ozaki M, Valanezhad A, Ishikawa K, Matsuya S	Dent Mater J.	31	2	197-205	2012
	The expression of podoplanin and classic cadherins in the mouse brain.	Kaji C, Tomooka M, Kato Y, Kojima H, Sawa Y.	J Anat	220	5	435-446	2012
口腔・顎顔面外科学	The inhibition of RANKL/RANK signaling by osteoprotegerin suppresses bone invasion by oral squamous cell carcinoma cells.	Shin M, Matsuo K, Tada T, Fukushima H, Furuta H, Ozeki S, Kadowaki T, Yamamoto K, Okamoto M, Jimi E	Carcinogenesis.	32	11	1634-1640	2011
	Effects of oxidative stress on the expression of 8-oxoguanine and its eliminating enzymes in human keratinocytes and squamous carcinoma cells	Nakayama S, Kajiya H, Okabe K, Ikebe T	Oral Science International	8	1	11-16	2011
	Nationwide survey for bisphosphonate-related osteonecrosis of the jaws in Japan.	Urade M, Tanaka N, Furusawa K, Shimada J, Shibata T, Kirita T, Yamamoto T, Ikebe T, Kitagawa Y, Fukuta J	J Oral Maxillofac Surg.	69	11	364-371	2011
	Zoledronic acid inhibits RANK expression and migration of osteoclast precursors during osteoclastogenesis.	Kimachi K, Kajiya H, Nakayama S, Ikebe T, Okabe K	Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol.	383	3	297-308	2011
診断・全身管理学	Evaluation of diffusion parameters and T2 values of the masseter muscle during jaw opening, clenching, and rest.	Shiraishi T, Chikui T, Inadomi D, Kagawa T, Yoshiura K, Yuasa K	Acta Radiologica.	53	1	81-86	2012
	Quantitative evaluation of vascularity within cervical lymph nodes using Doppler ultrasound in patients with oral cancer: relation to lymph node size.	Kagawa T, Yuasa K, Fukunari F, Shiraishi T, Miwa K	Dentomaxillofacial Radiology.	40	7	415-421	2011
総合医学	Prevalence of postural orthostatic tachycardia syndrome in patients with psychiatric disorders.	Lkhagvasuren B, Oka T, Kawai K, Takii M, Kanemitsu Y, Tokunaga S, Kubo C	Psychother Psychosom.	80	5	308-309	2011
	Microsomal epoxide hydrolase polymorphisms, cigarette smoking, and risk of colorectal cancer: the Fukuoka Colorectal Cancer Study.	Nisa H, Budhathoki S, Morita M, Toyomura K, Nagano J, Ohnaka K, Kono S, Ueki T, Tanaka M, Kakeji Y, Maehara Y, Okamura T	Mol Carcinog.			Epub, Mar 13	2012
	Constipation and colorectal cancer risk: the Fukuoka Colorectal Cancer Study.	Tashiro N, Budhathoki S, Ohnaka K, Toyomura K, Kono S, Ueki T, Tanaka M, Kakeji Y, Maehara Y, Okamura T, Ikejiri K, Futami K, Maekawa T	Asian Pac J Cancer Prev.	12	8	2025-30	2011
	Neuroticism and extraversion personality traits, health behaviours, and subjective well-being: the Fukuoka Study (Japan).	Otonari J, Nagano J, Morita M, Budhathoki S, Tashiro N, Toyomura K, Kono S, Imai K, Ohnaka K, Takayanagi R	Qual Life Res.			Epub, Dec 29	2011
	Genetic polymorphisms of XRCC1, alcohol consumption, and the risk of colorectal cancer in Japan.	Yin G, Morita M, Ohnaka K, Toyomura K, Hamajima N, Mizoue T, Ueki T, Tanaka M, Kakeji Y, Maehara Y, Okamura T, Ikejiri K, Futami K, Yasunami Y, Maekawa T, Takenaka K, Ichimiya H, Terasaka R	J Epidemiol.	22	1	64-71	2011
	Intravitreal bevacizumab treatment for neovascular glaucoma: histopathological analysis of trabeculectomy specimens.	Yoshida N, Hisatomi T, Ikeda Y, Kohno R, Murakami Y, Imaki H, Ueno A, Fujisawa K, Ishibashi T	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol.	249	10	1547-1552	2011

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
総合医学	Establishment of a new animal model of focal subretinal fibrosis that resembles disciform lesion in advanced age-related macular degeneration.	Jo YJ, Sonoda KH, Oshima Y, Takeda A, Kohno R, Yamada J, Hamuro J, Yang Y, Notomi S, Hisatomi T, Ishibashi T	Invest Ophthalmol Vis Sci.	52	9	6089-6095	2011
	Prestroke glycemic control is associated with the functional outcome in acute ischemic stroke: the Fukuoka Stroke Registry.	Kamouchi M, Matsuki T, Hata J, Kuwashiro T, Ago T, Sambongi Y, Fukushima Y, Sugimori H, Kitazono T, Ooboshi H, FSR Investigators	Stroke	42	10	2788-2794	2011
	Risk factors predisposing to stroke recurrence within one year of non-cardioembolic stroke onset: the Fukuoka Stroke Registry.	Kuwashiro T, Sugimori H, Ago T, Kamouchi M, Kitazono T, Ooboshi H, FSR Investigators	Cerebrovasc Dis	33	2	141-149	2012
	PDGF receptor $\beta$ signaling in pericytes following ischemic brain injury.	Arimura K, Ago T, Kamouchi M, Nakamura K, Ishitsuka K, Kuroda J, Sugimori H, Ooboshi H, Sasaki T, Kitazono T	Curr Neurovasc Res.	9	1	1-9	2012
	The antioxidant tempol ameliorates arterial medial calcification in uremic rats: Important role of oxidative stress in the pathogenesis of vascular calcification in chronic kidney disease.	Yamada S, Taniguchi M, Tokumoto M, Toyonaga J, Fujisaki K, Suehiro T, Noguchi H, Iida M, Tsuruya K, Kitazono T	J Bone Miner Res	27	2	474-485	2012
	Salt intake in 3-year-old Japanese children.	Morinaga Y, Tsuchihashi T, Ohta Y, Matsumura K	Hypertens Res.	34	7	836-839	2011
	Consequence of masked hypertension in treated hypertensive outpatients: 1-year follow-up study.	Ohta Y, Tsuchihashi T, Kiyohara K	Clin Exp Hypertens.	33	4	270-274	2011
	Relationship between blood pressure control status and lifestyle in hypertensive outpatients.	Ohta Y, Tsuchihashi T, Kiyohara K	Intern Med.	50	19	2107-2112	2011
	Association of serum uric acid with blood pressure in Japanese men. Cross-sectional study in work-site group.	Kansui Y, Ohtsubo T, Goto K, Sakata S, Ichishima K, Fukuhara M, Ohta Y, Matsumura K	Circ J.	75	12	2827-2832	2011
口腔保健学	Necessity and readiness for smoking cessation intervention in dental clinics in Japan	Ojima M, Hanioka T, Tanaka H	Journal of Epidemiology	22	1	57-63	2011
	Immunohistochemical and immunocytochemical localization of amylase in rat parotid glands and von Ebner's glands by ion etching-immunoscanning electron microscopy	Yahiro J, Inai T, Tsutsui A, Sato A, Nagato T, Taniguchi K, Tsuruga E, Sawa Y	Acta Histochem Cytochem.	44	5	201-212	2011
機能生物化学	DNA/protamine complex paste for an injectable dental material.	Fukushima T, Ohno J, Imayoshi R, Mori N, Sakagami R, Mitarai M, Hayakawa T	J Mater Sci Mater Med.	22	12	2607-2615	2011
	Oxidative damage to RNA and expression patterns of MTH1 in the hippocampi of senescence-accelerated SAMP8 mice and Alzheimer's disease patients.	Song XN, Zhang LQ, Liu DG, Lin J, Zheng JD, Dai DP, Hei AL, Hayakawa H, Sekiguchi M, Cai JP	Neurochem Res.	36	8	1558-1565	2011
	Lowered Nudix type 5 (NUDT5) expression leads to cell cycle retardation in HeLa cells.	Zhang LQ, Dai DP, Gan W, Takagi Y, Hayakawa H, Sekiguchi M, Cai JP	Mol Cell Biochem.	363	1-2	377-384	2011
機能生物化学	Lantibiotic transporter requires cooperative functioning of the peptidase domain and the ATP binding domain.	Nishie M, Sasaki M, Nagao J, Zendo T, Nakayama J, Sonomoto K	J Biol Chem.	286	13	11163-11169	2011
	Enhanced production of nukacin D13E in Lactococcus lactis NZ9000 by the additional expression of immunity genes.	Puramattathu TV, Islam MR, Nishie M, Yanagihara S, Nagao J, Okuda K, Zendo T, Nakayama J, Sonomoto K	Appl Microbiol Biotechnol.	93	2	671-678	2012
	Ring A of Nukacin ISK-1: A Lipid II-Binding Motif for Type-A(II) Lantibiotic.	Islam MR, Nishie M, Nagao J, Zendo T, Keller S, Nakayama J, Kohda D, Sahl HG, Sonomoto K	J Am Chem Soc.	134	8	3687-3690	2012
歯科医療工学	Dispersion stability and exothermic properties of DNA-functionalized single-walled carbon nanotubes	Kawaguchi M, Ohno J, Irie A, Fukushima T, Yamazaki J, Nakashima N	Int J Nanomedicine.	6		729-736	2011
	Hydrothermal calcium modification of 316L stainless steel and its apatite forming ability in simulated body fluid.	Valanezhad A, Ishikawa K, Tsuru K, Maruta M, Matsuya S	Dent Mater J.	30	5	749-753	2011



所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
歯科医療工学	Preparation of Sr-containing carbonate apatite as a bone substitute and its property.	Sakai A, Ozaki M, Valanezhad A, Ishikawa K, Matsuya S	Dent Mater J.	31	2	197-205	2012
	A new biocompatible coating layer applied on titanium substrates using a modified zinc phosphatizing method.	Valanezhad A, Tsuru K, Maruta M, Kawachi G, Matsuya S, Ishikawa K	Surface and Coatings Technology	206	8-9	2207-2212	2012
	Fabrication of carbonate apatite block from calcium sulfate by hydrothermal treatment	Nomura S, Tsuru K, A Valanezhad, Matsuya S, Takahashi I, Ishikawa K	Key Engineering Materials	493-494		139-142	2012
	Fabrication of $\beta$ TCP with fully-interconnected porous structure	Nikaido T, Tsuru K, Daitou F, Munar M, Matsuya S, Nakamura S, Ishikawa K	Key Engineering Materials	493-494		135-138	2012
	Calcite bone substitute prepared from calcium hydroxide compact using heat-treatment under carbon dioxide atmosphere	Tsuru K, Otsu A, Maruta M, A Valanezhad, Kawachi G, Takeuchi A, Matsuya S, Ishikawa K	Key Engineering Materials	493-494		166-169	2012
	Fully-interconnected pore forming calcium phosphate cement	Ishikawa K, Tsuru K, K Pham T, Maruta M, Matsuya S	Key Engineering Materials	493-494		832-835	2012
	A novel HAp coating method on titanium	A Valanezhad, Tsuru K, Maruta M, Matsuya S, Ishikawa K	Key Engineering Materials	493-494		495-498	2012
	Rat calvarial tissues response to flowable DNA/protamine complex mixtures with DNA/chitosan complex to be used as a protective membrane for guided bone regeneration	Shinozaki Y, Mori N, Ohno J, Kawaguchi M, Kido H, Hayakawa T, Fukushima T	J Oral Tissue Engin	9	3	159-166	2012
生体構造学	Alterations in PNA binding of keratinocytes in oral keratosis.	Ohno J, Iwahashi T, Ehara M, Taniguchi K	Biotech Histochem.	86	3	168-173	2011
	Induction of epithelial migration of lymphocytes by intercellular adhesion molecule-1 in a rat model of oral mucosal graft-versus-host disease.	Ohno J, Iwahashi T, Ehara M, Ozasa R, Hanada H, Funakoshi T, Taniguchi K	Histol Histopathol.	26	6	725-733	2011
	Dispersion stability and exothermic properties of DNA-functionalized single-walled carbon nanotubes	Kawaguchi M, Ohno J, Irie A, Fukushima T, Yamazaki J, Nakashima N	Int J Nanomedicine.	6		729-736	2011
	Immunolocalization of spetex-1 at the connecting piece in spermatozoa of the musk shrew ( <i>Suncus murinus</i> ).	Kaneko T, Iwamoto S, Murayama E, Kurio H, Inai T, Oda S, Iida H	Zoolog Sci.	28	6	444-452	2011
	Computational approach for calcium complex formation of aromatic carboxylic acid monomers	Hayakawa T, Hirayama S, Ohno J, Fukushima T	Nano Biomedicine	3	1	200-207	2011
	DNA/protamine complex paste for an injectable dental material.	Fukushima T, Ohno J, Imayoshi R, Mori N, Sakagami R, Mitarai M, Hayakawa T	J Mater Sci Mater Med.	22	12	2607-2615	2011
	Fibrillin-1 and fibrillin-2 are essential for formation of thick oxytalan fibers in human nonpigmented ciliary epithelial cells in vitro.	Yamanouchi K, Tsuruga E, Oka K, Sawa Y, Ishikawa H	Connect Tissue Res.	53	1	14-20	2011
	Characterization of the calcification process modeled in rat embryonic calvarial culture.	Kimura Y, Kikunaga S, Takahashi I, Hatakeyama Y, Fukumoto S, Sasano Y	J Electron Microsc (Tokyo).	60	5	345-352	2011
	Growth differentiation factor 5 (GDF-5) induces matrix metalloproteinase 2 (MMP-2) expression in periodontal ligament cells and modulates MMP-2 and MMP-13 activity in osteoblasts	Hatakeyama Y, Hatakeyama J, Maruya Y, Oka K, Tsuruga E, Inai T, Sawa Y	Bone and Tissue Regeneration Insights	4		1-10	2011
	Immunohistochemical and immunocytochemical localization of amylase in rat parotid glands and von ebner's glands by ion etching-Immunoscanning electron microscopy	Yahiro J, Inai T, Tsutsui A, Sato A, Nagato T, Taniguchi K, Tsuruga E, Sawa Y	Acta Histochem Cytochem.	44	5	201-212	2011
	Expression of podoplanin and classical cadherins in salivary gland epithelial cells of klotho-deficient mice.	Amano I, Imaizumi Y, Kaji C, Kojima H, Sawa Y	Acta Histochem Cytochem.	44	6	267-276	2011
	Roles of collagen and periostin expression by cranial neural crest cells during soft palate development.	Oka K, Honda MJ, Tsuruga E, Hatakeyama Y, Isokawa K, Sawa Y	J Histochem Cytochem.	60	1	57-68	2012
	Rat calvarial tissues response to flowable DNA/protamine complex mixtures with DNA/chitosan complex to be used as a protective membrane for guided bone regeneration	Shinozaki Y, Mori N, Ohno J, Kawaguchi M, Kido H, Hayakawa T, Fukushima T	J Oral Tissue Engin	9	3	159-166	2012

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
生体構造学	Establishment of a novel monoclonal antibody SMab-1 specific for IDH1-R132S mutation.	Kaneko MK, Tian W, Takano S, Suzuki H, Sawa Y, Hozumi Y, Goto K, Yamazaki K, Kitanaka C, Kato Y.	Biochem Biophys Res Commun	406	4	608-613	2011
	The expression of podoplanin and classic cadherins in the mouse brain.	Kaji C, Tomooka M, Kato Y, Kojima H, Sawa Y.	J Anat	220	5	435-446	2012
細胞分子生物学	Dispersion stability and exothermic properties of DNA-functionalized single-walled carbon nanotubes	Kawaguchi M, Ohno J, Irie A, Fukushima T, Yamazaki J, Nakashima N	Int J Nanomedicine.	6		729-736	2011
	Inhibition of T-type calcium channels and hydrogen sulfide-forming enzyme reverses paclitaxel-evoked neuropathic hyperalgesia in rats.	Okubo K, Takahashi T, Sekiguchi F, Kanaoka D, Matsunami M, Ohkubo T, Yamazaki J, Fukushima N, Yoshida S, Kawabata A	Neuroscience.	188	11	148-156	2011
	Voltage-gated K <sup>+</sup> channel KCNQ1 regulates insulin secretion in MIN6 $\beta$ -cell line.	Yamagata K, Senokuchi T, Lu M, Takemoto M, Fazlul Karim M, Go C, Sato Y, Hatta M, Yoshizawa T, Araki E, Miyazaki J, Song WJ	Biochem Biophys Res Commun.	407	3	620-625	2011
	Dual signaling pathways of arterial constriction by extracellular uridine 5'-triphosphate in the rat.	Sugihara M, Morita H, Matsuda M, Umebayashi H, Kajioaka S, Ito S, Nishida M, Inoue R, Futatsuki T, Yamazaki J, Mori Y, Inoue R, Ito Y, Abe K, Hirata M	J Pharmacol Sci.	115	3	293-308	2011
	Hyperocclusion stimulates osteoclastogenesis via CCL2 expression	Goto KT, Kajiya H, Nemoto T, Tsutsumi T, Tsuzuki T, Sato H, Okabe K	J Dent Res	90	6	793-798	2011
	Effects of oxidative stress on the expression of 8-oxoguanine and its eliminating enzymes in human keratinocytes and squamous carcinoma cells	Nakayama S, Kajiya H, Okabe K, Ikebe T	Oral Science International	8	1	11-16	2011
	Zoledronic acid inhibits RANK expression and migration of osteoclast precursors during osteoclastogenesis.	Kimachi K, Kajiya H, Nakayama S, Ikebe T, Okabe K	Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol.	383	3	297-308	2011
	Oral Epithelial Cells are Activated via TRP Channels.	Wang B, Danjo A, Kajiya H, Okabe K, Kido MA	J Dent Res	90	2	163-167	2011
	Antibodies against CIC7 inhibit extracellular acidification-induced Cf currents and bone resorption activity in mouse	Ohgi K, Okamoto F, Kajiya H, Sakagami R, Okabe K	Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol	383	1	79-90	2011
	Activation of AMP-activated protein kinase by MAPO1 and FLCN induces apoptosis triggered by alkylated base mismatch in DNA.	Lim TH, Fujikane R, Sano S, Sakagami R, Nakatsu Y, Tsuzuki T, Sekiguchi M, Hidaka M	DNA Repair (Amst).	11	3	259-266	2012
先端科学研究センター	Diverse substrate recognition and hydrolysis mechanisms of human NUDT5.	Arimori T, Tamaoki H, Nakamura T, Kamiya H, Ikemizu S, Takagi Y, Ishibashi T, Harashima H, Sekiguchi M, Yamagata Y	Nucleic Acids Res.	39	20	8972-8983	2011
	Lowered Nudix type 5 (NUDT5) expression leads to cell cycle retardation in HeLa cells.	Zhang LQ, Dai DP, Gan W, Takagi Y, Hayakawa H, Sekiguchi M, Cai JP	Mol Cell Biochem.	363	1-2	377-384	2011
	Oxidative damage to RNA and expression patterns of MTH1 in the hippocampi of senescence-accelerated SAMP8 mice and Alzheimer's disease patients.	Song XN, Zhang LQ, Liu DG, Lin J, Zheng JD, Dai DP, Hei AL, Hayakawa H, Sekiguchi M, Cai JP	Neurochem Res.	36	8	1558-1565	2011
	Activation of AMP-activated protein kinase by MAPO1 and FLCN induces apoptosis triggered by alkylated base mismatch in DNA.	Lim TH, Fujikane R, Sano S, Sakagami R, Nakatsu Y, Tsuzuki T, Sekiguchi M, Hidaka M	DNA Repair (Amst).	11	3	259-266	2012
再生医学研究センター	Computational approach for calcium complex formation of aromatic carboxylic acid monomers	Hayakawa T, Hirayama S, Ohno J, Fukushima T	Nano Biomedicine	3	1	200-207	2011
	DNA/protamine complex paste for an injectable dental material.	Fukushima T, Ohno J, Imayoshi R, Mori N, Sakagami R, Mitarai M, Hayakawa T	J Mater Sci:Mater Med.	22	12	2607-2615	2011
	Dispersion stability and exothermic properties of DNA-functionalized single-walled carbon nanotubes	Kawaguchi M, Ohno J, Irie A, Fukushima T, Yamazaki J, Nakashima N	Int J Nanomedicine.	6		729-736	2011

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
再生医学研究センター	Rat calvarial tissues response to flowable DNA/protamine complex mixtures with DNA/chitosan complex to be used as a protective membrane for guided bone regeneration	Shinozaki Y, Mori N, Ohno J, Kawaguchi M, Kido H, Hayakawa T, Fukushima T	J Oral Tissue Engin	9	3	159-166	2012
口腔医療センター	Enterococcus faecium WB2000 inhibits biofilm formation by oral cariogenic streptococci.	Suzuki N, Yoneda M, Hatano Y, Iwamoto T, Masuo Y, Hirofuji T	Int J Dent.	2011		doi:10.1155/2011/834151	2011
	Discrimination of the oral microbiota associated with high hydrogen sulfide and methyl mercaptan production.	Takeshita T, Suzuki N, Nakano Y, Yasui M, Yoneda M, Shimazaki Y, Hirofuji T, Yamashita Y	Scientific Reports.			Epub	2012
	Salivary $\beta$ -galactosidase activity affects physiological oral malodour.	Masuo Y, Suzuki N, Yoneda M, Naito T, Hirofuji T	Archives of Oral Biology.	57	1	87-93	2012
	Effects of oil drops containing Lactobacillus salivarius WB21 on periodontal health and oral microbiota producing volatile sulfur compounds	Suzuki N, Tanabe K, Takeshita T, Yoneda M, Iwamoto T, Oshiro S, Yamashita Y, Hirofuji T	J Breath Res.	6	1	Doi:10.1088/1752-7155/6/1/017106	2012

#### 4.症例報告

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
咬合修復学	Use of a light-activated composite resin to adjust intaglio surface of removable prosthesis	Shimizu H, Kawaguchi T, Takahashi Y	Asian Pacific Journal of Dentistry	11	2	51-53	2011
総合医学	A case of metastatic choroidal tumor simulating a choroidal melanoma.	Arima M, Yoshikawa H, Kagimoto T, Kohno R, Ishibashi T	Jpn J Ophthalmol.	55	3	312-314	2011

### [福岡医療短期大学]

#### 1.原著

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
歯科衛生学科	Hyperocclusion stimulates osteoclastogenesis via CCL2 expression	Goto KT, Kajiya H, Nemoto T, Tsutsumi T, Tsuzuki T, Sato H, Okabe K	J Dent Res	90	6	793-798	2011
保健福祉学科	Diabetes modulates ethanol-induced increase in serotonin release from rat hippocampus: an in vivo microdialysis study.	Nagata T, Nishiyama A, Yamato T, Obata T, Aomine M	Nutr Neurosci.	14	3	96-105	2011

## 別表 8 平成 23 年度地域貢献一覧表

実施事業	内 容
運動場、テニスコート、体育館の開放	地元ソフトボールチーム、野球チーム、子供ラグビークラブを始め早良区壮年ソフトボール大会等、ほぼ毎週運動場、テニスコート、ラグビー場、体育館等体育施設の地域への開放を行った。
公園清掃	田新町が町内行事として月 1 回実施している田村北公園の清掃に介護老人保健施設等の職員が毎回 3 名参加し、地域との交流を深めるとともに、清掃後、理学療法士等によるリハビリ体操の指導を行った。
歯科衛生士の講師派遣	地域の依頼に応じて介護老人保健施設の歯科衛生士が口腔ケア指導を行っている。
学園祭での交流	田村校区、四箇田団地の子供会で組織するダンスチーム、保育園で指導している地域の太鼓演奏が学園祭にゲスト出演し、イベント会場を盛り上げた。また地域団体が学園祭バザーに参加した。
福岡医療短期大学教員ボランティア活動	地域交流並びに地域活性化ボランティア活動の取り組みとして、キャンパス内のさくら館において定期的開催されている地元田新町老人会「親和会」の集いに短大教員並びに専攻科学生が毎月担当を決めて参加し、情報提供を行っている。平成 23 年度は計 12 回参加した。

## 別表 9 平成 23 年度公開講座一覧表

名 称	開催日・会場	テーマ・参加人員
出前講座	平成 23 年 4 月から平成 24 年 3 月まで (市内公民館、小学校等)	市内公民館、小学校などを対象に、本学の教授、准教授等が「心と体・口・歯の健康の話」をテーマに、30 箇所の出前講義を行った。
平成 23 年度福岡歯科大学臨床セミナー	平成 23 年 4 月から 24 年 1 月まで (福岡歯科大学本館 6 階 602 講義室他)	医療関係者を対象に通算 22 回実施した。 参加者延べ 1,385 名(臨床研修歯科医を含む)。
先端科学研究センターシンポジウム	平成 23 年 8 月 2 日 (福岡歯科大学 801 講義室)	先駆的な研究を行っている 2 名の学外のシンポジストによる講演 参加者 50 名
福岡歯科大学公開講座	平成 23 年 9 月 23 日 ～24 日 (よみうりプラザ)	「お口とからだキレイになるアンチエイジング」 1 日目 1. 「口臭予防で健やかな毎日を」 2. 「気になるにおいの最前線」 2 日目 1. 「アンチエイジングの最前線」 2. 「アンチエイジングの最前線～からだの内から～」 参加者 204 名 (1 日目：114 名、2 日目 90 名)
勝鷹夢祭り	平成 23 年 10 月 9 日 (中西商店街)	協賛団体として参加 「お口と体の無料健康相談・血流度ストレス度無料測定」 参加者 152 名
「健康まるごと福岡学園」	平成 23 年 10 月 22 日 ～23 日 (福岡学園)	1. からだの科学展 2. 医科ミニ講座・歯科無料相談 3. 介護施設見学・介護無料相談 4. 短大企画「口から始める介護予防」 各イベント参加者合計 2,346 人
平成 23 年度地下鉄七隈線沿線 3 大学合同シンポジウム	平成 23 年 10 月 23 日 (福岡歯科大学 講堂)	メインテーマ「子どもの食と健康」 第一部講演、第二部公開討論(参加者からの質問に回答する形式)。 本学、福岡大学、中村学園大学合同開催。参加者 202 名
福岡歯科大学学会総会特別講演	平成 23 年 12 月 11 日 (福岡県歯科医師会館)	シンポジウム「再生医療の新展開～歯・歯周組織・顎骨の再生と再建」 4 名のシンポジストによる講演 参加者 279 名
戦略的大学連携支援事業 口腔医学シンポジウム	平成 24 年 1 月 22 日 (鶴見大学会館)	テーマ「口腔の病気と全身の健康～口腔医学の展開」 5 名のシンポジストによる講演 後、講演者による討論 参加者 112 名

名 称	開催日・会場	テーマ・参加人員
再生医学研究センターシンポジウム	平成 24 年 1 月 26 日 (福岡歯科大学 504 講義室)	再生医療の研究を行っている 2 名の 学外シンポジストによる講演 参加者 34 名
JR 博多駅ウォーキングイベント (口腔医療センター)	平成 24 年 3 月 24 日 (JR 博多駅)	協賛団体として参加 「お口の無料健康チェック」 参加者 151 名
大学院特別講義	平成 23 年 7 月 4 日 ～平成 23 年 11 月 4 日 (福岡歯科大学 第 3 会議室他)、全 5 回	ボストン大学、コーネル大学、上海 交通大学、ブリティッシュコロニア 大学、ノースキャロライナ大学等 の教授らによる講義が行われた。
福岡医療短期大学 公開講座	平成 23 年 7 月 10 日 (福岡医療短期大学 307 講義室)	テーマ「地域に広げよう！認知症サ ポーター～パート 1：明日から役立 つ認知症ケアと口腔ケア～」 参加者 89 名
福岡医療短期大学 公開講座	平成 23 年 10 月 2 日 (福岡医療短期大学 307 講義室)	テーマ「口から始まる健康（健口） づくり～よく食べて、よく噛んで、 よく生きる～」 参加者 116 名

# 別表 10 平成23年度海外研修派遣一覧表

## 第3種海外研修派遣実績一覧表

福岡歯科大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
成長発達歯学講座	医員	吉田 知江	学会	ソウル（韓国）	H. 23. 04. 08	H. 23. 04. 10
成長発達歯学講座	大学院	友岡 みわ	学会	ソウル（韓国）	H. 23. 04. 08	H. 23. 04. 10
総合医学講座	助教	大田 祐子	学会	ミラノ（イタリア）	H. 23. 06. 16	H. 23. 06. 23
生体構造学講座	准教授	敦賀 英知	学会	ビッドフォード（アメリカ）	H. 23. 07. 23	H. 23. 07. 30
歯科医療工学講座	講師	川口 智弘	学会	トゥルク（フィンランド）	H. 23. 08. 17	H. 23. 09. 10
先端科学研究センター	客員教授	関口 睦夫	打合せ	北京、寧波（中国）	H. 23. 09. 03	H. 23. 09. 11
先端科学研究センター	准教授	高木 康光	打合せ	北京、寧波（中国）	H. 23. 09. 07	H. 23. 09. 11
咬合修復学講座	助教	新田 悟	学会	ワイコロア（アメリカ）	H. 23. 09. 08	H. 23. 09. 13
咬合修復学講座	教授	佐藤 博信	学会	ワイコロア（アメリカ）	H. 23. 09. 08	H. 23. 09. 13
咬合修復学講座	医員	佐々木 美智子	学会	ワイコロア（アメリカ）	H. 23. 09. 08	H. 23. 09. 13
口腔保健学講座	教授	埴岡 隆	学会	ウィーン（オーストリア）	H. 23. 09. 19	H. 23. 09. 25
総合医学講座	教授	大星 博明	学会	イスタンブール他（トルコ）	H. 23. 09. 28	H. 23. 10. 05
咬合修復学講座	大学院生	鴨川 和子	学会	ソウル（韓国）	H. 23. 10. 06	H. 23. 10. 09
咬合修復学講座	大学院生	篠崎 陽介	学会	ソウル（韓国）	H. 23. 10. 06	H. 23. 10. 09
咬合修復学講座	大学院生	安野 貴美恵	学会	ソウル（韓国）	H. 23. 10. 06	H. 23. 10. 09
咬合修復学講座	大学院生	柳 束	学会	ソウル（韓国）	H. 23. 10. 06	H. 23. 10. 09
咬合修復学講座	大学院生	入江 昭仁	学会	ソウル（韓国）	H. 23. 10. 06	H. 23. 10. 09
咬合修復学講座	教授	城戸 寛史	学会	ソウル（韓国）	H. 23. 10. 06	H. 23. 10. 09
咬合修復学講座	医員	横上 智	学会	アテネ（ギリシャ）	H. 23. 10. 11	H. 23. 10. 18
咬合修復学講座	医員	岡野 友香	学会	アテネ（ギリシャ）	H. 23. 10. 11	H. 23. 10. 18
咬合修復学講座	大学院生	坂井 拓弥	学会	アテネ（ギリシャ）	H. 23. 10. 11	H. 23. 10. 18
咬合修復学講座	教授	城戸 寛史	学会	アテネ（ギリシャ）	H. 23. 10. 11	H. 23. 10. 18
咬合修復学講座	助教	片渕 三千綱	打合せ	ノースカロライナ、シアトル（アメリカ）	H. 23. 10. 13	H. 23. 10. 21
口腔保健学講座	教授	埴岡 隆	学会	北京（中国）	H. 23. 10. 14	H. 23. 10. 16
総合歯科学講座	准教授	内藤 徹	学会	マドリッド（スペイン）	H. 23. 10. 18	H. 23. 10. 24
咬合修復学講座	客員教授	松浦 正朗	打合せ	北京（中国）	H. 23. 10. 24	H. 23. 10. 26
口腔保健学講座	講師	晴佐久 悟	学会	釜山（韓国）	H. 23. 11. 24	H. 23. 11. 15
成長発達歯学講座	講師	秦 雄一郎	学会	台中（台湾）	H. 23. 12. 09	H. 23. 12. 11
成長発達歯学講座	教授	石川 博之	学会	台中（台湾）	H. 23. 12. 09	H. 23. 12. 11
咬合修復学講座	教授	佐藤 博信	研究	フライブルグ、フュルンゲン、ルベーン	H. 23. 12. 11	H. 23. 12. 18
医科歯科総合病院	看護師	郡 留美	医療援助	ヤンゴン（ミャンマー）	H. 23. 12. 23	H. 23. 12. 31
診断・全身管理学講座	講師	野上 堅太郎	医療援助	ヤンゴン（ミャンマー）	H. 23. 12. 23	H. 23. 12. 31
口腔・顎顔面外科学講座	助教	中山 修二	医療援助	ヤンゴン（ミャンマー）	H. 23. 12. 23	H. 23. 12. 31
口腔・顎顔面外科学講座	助教	福沢 秀昭	医療援助	ヤンゴン（ミャンマー）	H. 23. 12. 23	H. 23. 12. 31
口腔・顎顔面外科学講座	教授	大関 悟	医療援助	ヤンゴン（ミャンマー）	H. 23. 12. 23	H. 23. 12. 31

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
総合歯科学講座	准教授	内 藤 徹	打合せ	バンクーバー（カナダ）	H. 24. 01. 15	H. 24. 01. 26

⑨第3種海外研修派遣：1月以内視察、調査、研究、学会参加等

### 第3種海外研修派遣実績一覧表

福岡医療短期大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
保健福祉学科	教授	高 瀬 文 広	学会	釜山（韓国）	H. 23. 04. 22	H. 23. 04. 24
歯科衛生学科	教授	力 丸 哲 也	引率	ロサンゼルス（アメリカ）	H. 23. 11. 02	H. 23. 11. 12
歯科衛生学科	教授	廣 瀬 武 尚	引率	釜山（韓国）	H. 23. 11. 22	H. 23. 11. 24
歯科衛生学科	教授	井 上 勇 介	引率	釜山（韓国）	H. 23. 11. 22	H. 23. 11. 24
歯科衛生学科	助教	松 吉 綾 子	引率	釜山（韓国）	H. 23. 11. 22	H. 23. 11. 24

⑨第3種海外研修派遣：1月以内視察、調査、研究、学会参加等



# 別表 1 1 平成23年度 外部研修等受講一覧表

所属	受講日	研 修 名	主 催	場 所	参加者
企画課	7/8-9	大学職員としてのアイデンティティ	八王子セミナーハウス	東京	吉原
	3/9	スタイルシートによるホームページの作成	Knowledge Wing	福岡	池田
総務課	4/6	新入社員研修	NCBリサーチ&コンサルティング	福岡	熊添
	5/13	職場活性化セミナー	ビジネスコンサルタント	福岡	赤坂
	6/9	大学評価、短期大学認証評価実務説明会		大阪	加藤
	6/7	私学共済事務担当者連絡会	共済事業団	福岡	松添
	6/23-24	経常費補助金説明会		福岡	赤坂・加藤
	6/28	人事・人材マネジメントセミナー	ビジネスコンサルタント	福岡	田島
	7/8	給与研修会	シティアスコム	福岡	田島
	7/8	労働基準法の実務	NCBリサーチ&コンサルティング	福岡	松添
	7/12	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）制度説明会	日本学術振興会	熊本	加藤
	7/13	仕事と家庭の両立支援セミナー	21世紀職業財団	福岡	赤坂
	7/26	セクハラ・パワハラ防止対策セミナー		福岡	赤坂
	7/27	給与実務研修会	日本人事行政研究所	東京	田島
	8/24	私学共済事務担当者研修会	共済事業団	大阪	赤坂
	8/24-25	私学共済事務担当者研修会	共済事業団	福岡	松添
	8/25-26	Q-links 第2回CDプロジェクト	Q-links	福岡	田島
	9/1	救命講習		福岡	秋吉
	9/8-9	私立大学協会九州支部中堅職員研修会	私立大学協会	福岡	加藤
	9/16	科学研究費公募要領等説明会		福岡	加藤
	10/14	給与実務研修会		東京	赤坂
	10/11-12	第49回公開研究会認証評価第2期目の課題		東京	加藤
	10/17	防火講習		福岡	秋吉
	10/21	九州沖縄ブロック大学等・安全保障貿易管理事例紹介・説明会		佐賀	秋吉
	10/24	平成23年委託研究契約事務処理説明会		大阪	加藤
	10/28	私立大学退職金財団業務説明会		福岡	松添
	11/8	「報告・連絡・相談」で仕事の質を高める	NCBリサーチ&コンサルティング	福岡	熊添
	11/18	九州地区私立大学事務連絡協議会		佐賀	赤坂
	2/3	セクハラ・パワハラ		福岡	赤坂
	2/8	労働保険・社会保険の基礎実務講座	NCBリサーチ&コンサルティング	福岡	田島
2/27	メンタルヘルスケアセミナー	厚生労働省	福岡	赤坂	
2/27	給与実務研修会	私学事業団	東京	田島	
財務課	5/30	補助金申請	文部科学省	東京	箱田
	6/15	日常業務に必要な法律知識	NCBリサーチ&コンサルティング	福岡	今林
	6/24	経常費補助金説明会		福岡	箱田
	7/12	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）制度説明会	日本学術振興会	熊本	八尋・今林
	9/16	科学研究費助成事業科研費公募要領等説明会		福岡	今林
	10/5-7	事務局長相当者研修会		大阪	本山
	10/13-14	大学経理部課長相当者研修会		北海道	松添

施設課	4/6	新入社員研修	NCBリサーチ&コンサルティング	福岡	梅村
	6/6-8	冷凍格研修会		福岡	多羅
	7/14-8/5	建築物環境衛生管理者講習会		福岡	島松
学務課	8/9	私立大学協会九州支部中堅職員研修会	私立大学協会	福岡	青木
	8/25-26	初任者研修会	私立大学協会九州支部	福岡	野方
	9/16	第5回大学評価担当者集会2011		福岡	青木
	9/17	平成23年度 I D E 大学セミナー		福岡	青木
	11/18	ティーチング・ポートフォリオの導入・活用シンポジウム		佐賀	野方
情報図書館課	6/5-8	実践ハッキングおよび防衛術習得トレーニング		東京	亀井
	7/14	伝わる話し方	NCBリサーチ&コンサルティング	福岡	原田
	8/3-5	第18回医学図書館員基礎研修会	日本医学図書館協会	東京	豊田
	8/25	初任者研修会	私立大学協会九州支部	福岡	原田
	8/29-30	大学情報セキュリティ研究講習会	私立大学情報教育協会	愛知	亀井
	9/6-9	L D A P 研修		東京	亀井
	10/20-21	ネットワークの基礎		福岡	原田
	11/9-10	第18回医学図書館研究会	日本医学図書館協会	広島	白水
11/9-10	2011年度九州地区研究会準備委員会		熊本	福富・白水	
病院事務課	4/21	県病院協会第43回診療情報管理研修会		福岡	江川
	9/29-30	第37回診療情報管理学会		福岡	江川
	10/27-28	私立歯科大学協会第33回附属病院管理事務研修会	私立歯科大学協会	東京	島松
	11/8	「報告・連絡・相談」で仕事の質を高める	NCBリサーチ&コンサルティング	福岡	石橋
	1/26	県病院協会第44回診療情報管理研修会		福岡	江川
	3/30	県医師会診療報酬点数改定説明会		福岡	田村・松浦
	3/28	県病院協会第111回医療事務研究会		福岡	江川

## 別表 1 2 平成23年度学内研修一覧

実施日	研修名	出席者数
5月10日	ハラスメント講演会	77名
5月14日	新採用職員研修	4名
7月28、30日	課長補佐・係長研修	14名
8月30日	中堅職員研修	20名
9月27-29日	I C T スキルアップ研修 「excel」	11名
10月4-5日	” 「powerpoint」	5名
11月10日	課長研修	10名
3月27日	課長補佐研修	3名

別表 1 3 平成23年度 戦略的大学連携支援事業  
短期研修派遣参加者

受講日	研 修 名	主 催	場 所	参加者
9/14-16	戦略的大学連携支援事業 短期研修派遣	神奈川歯科大学	神奈川	麻生係員
9/20-22	戦略的大学連携支援事業 短期研修派遣	鶴見大学	神奈川	白水主任

別表 1 4 平成23年度 西部地区五大学連携懇話会  
研修参加者

受講日	研 修 名	主 催	場 所	参加者
5/23	ファシリテーション基礎研修	九州大学	福岡	吉原主任
5/23	ファシリテーション基礎研修	九州大学	福岡	秋吉主任
5/23	ファシリテーション基礎研修	九州大学	福岡	豊福主任
10/29	西部地区五大学連携 私立大学フォーラム	西部地区五大学連携	福岡	青木係長
9/1	ビジネスマナー研修	中村学園大学	福岡	熊添係員
9/1	ビジネスマナー研修	中村学園大学	福岡	梅村係員

## 別表 15 資金収支総括表

(単位:千円)

科 目		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	3,607,370	3,574,023	3,562,538	3,419,725	3,350,050
	手数料収入	28,836	22,885	21,209	21,939	21,134
	寄附金収入	27,510	22,873	23,324	27,137	25,212
	補助金収入	505,260	517,193	1,220,852	597,966	361,121
	資産運用収入	840,554	831,003	902,590	784,801	785,831
	資産売却収入	121,459	523,150	537,770	1,532,840	1,478,924
	事業収入	1,698,451	1,711,305	1,755,489	1,859,453	1,909,846
	雑収入	182,637	151,334	272,742	241,852	168,955
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	772,975	771,411	695,539	733,194	540,929
	その他の収入	2,335,922	730,415	8,960,965	4,983,108	4,870,258
	資金収入調整勘定	△ 1,235,117	△ 1,084,721	△ 1,934,052	△ 1,239,655	△ 1,070,351
	小計	8,885,857	7,770,871	16,018,966	12,962,360	12,441,909
	前年度繰越支払資金	1,732,395	1,464,297	942,636	1,254,015	812,457
	合計	10,618,252	9,235,168	16,961,602	14,216,375	13,254,366
支出の部	人件費支出	3,453,389	3,462,344	3,548,121	3,576,403	3,340,714
	教育研究経費支出	1,376,225	1,182,347	1,385,720	1,241,883	1,373,628
	管理経費支出	218,215	222,030	218,168	208,472	216,146
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	37,046	344,049	965,748	125,645	228,176
	設備関係支出	146,440	204,787	519,979	264,090	303,949
	資産運用支出	3,713,746	2,843,919	9,722,997	7,521,713	6,901,783
	その他の支出	607,144	426,273	406,757	1,071,943	619,244
	資金支出調整勘定	△ 398,250	△ 393,217	△ 1,059,903	△ 606,231	△ 280,092
	小計	9,153,955	8,292,532	15,707,587	13,403,918	12,703,548
	次年度繰越支払資金	1,464,297	942,636	1,254,015	812,457	550,818
	合計	10,618,252	9,235,168	16,961,602	14,216,375	13,254,366

## 別表 1 6 消費収支総括表

(単位:千円)

科 目		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
消費収入	学生生徒等納付金(ア)	3,607,370	3,574,023	3,562,538	3,419,725	3,350,050
	手 数 料	28,836	22,885	21,209	21,939	21,134
	寄 附 金(イ)	46,588	47,616	35,374	41,623	42,039
	補 助 金(ウ)	505,260	517,193	1,220,852	597,966	361,121
	資 産 運 用 収 入	840,554	831,003	902,590	784,801	785,831
	資 産 売 却 差 額(エ)	0	0	0	0	0
	うち、有価証券売却差額	0	0	0	0	0
	事 業 収 入	1,698,451	1,711,305	1,755,489	1,859,453	1,909,846
	雑 収 入	182,636	151,334	272,742	241,852	478,151
	合 計(オ)	6,909,695	6,855,359	7,770,794	6,967,359	6,948,172
の 部	基 本 金 組 入 額(カ)	△ 1,993,206	△ 1,470,377	△ 1,621,505	△ 2,659,119	△ 2,186,178
	(第1号基本金組入額)	△ 72,126	△ 347,227	△ 483,885	△ 531,889	△ 441,659
	(第2号基本金組入額)	△ 600,000	△ 600,000	△ 600,000	△ 600,000	△ 222,009
	(第3号基本金組入額)	△ 1,321,080	△ 523,150	△ 537,620	△ 1,527,230	△ 1,522,510
	(第4号基本金組入額)	0	0	0	0	0
	消 費 収 入 (オーカ)(キ)	4,916,489	5,384,982	6,149,289	4,308,240	4,761,994
消 費 支 出 の 部	人 件 費(ク)	3,582,581	3,382,947	3,400,470	3,409,596	3,254,359
	教 育 研 究 経 費(ケ)	1,861,818	1,639,090	1,828,245	1,736,022	1,875,535
	うち、減価償却	481,154	456,535	442,618	498,174	498,425
	管 理 経 費(コ)	260,428	250,208	239,164	237,577	244,931
	うち、減価償却	30,900	28,581	20,205	28,653	28,253
	借 入 金 等 利 息(サ)	0	0	0	0	0
	資 産 処 分 差 額(シ)	22,521	9,442	62,843	36,906	6,029
	うち、有価証券処分差額	0	0	0	0	0
	うち、有価証券評価差額	0	0	0	0	0
	徴収不能引当金繰入額 (又は徴収不能額)(ス)	0	731	60	4,054	7,252
消 費 支 出 合 計(セ)	5,727,347	5,282,417	5,530,782	5,424,155	5,388,106	
当年度消費収入超過額(キーセ) (又は△当年度消費支出超過額)		△ 810,858	102,565	618,507	△ 1,115,915	△ 626,112
前年度繰越消費収入超過額 (又は△前年度繰越消費支出超過額)		4,674,411	3,886,143	4,131,924	4,777,666	3,662,040
(何) 年度消費支出準備金繰入額		0	0	0	0	0
(何) 年度消費支出準備金取崩額		0	0	0	0	0
基 本 金 取 崩 額		22,590	143,216	27,235	289	70,355
翌年度繰越消費収入超過額 (又は△翌年度繰越消費支出超過額)		3,886,143	4,131,924	4,777,666	3,662,040	3,106,283
帰属収支差額(オ)-(セ)		1,182,348	1,572,942	2,240,012	1,543,204	1,560,066

# 貸借対照表

## 別表 17

(単位:千円)

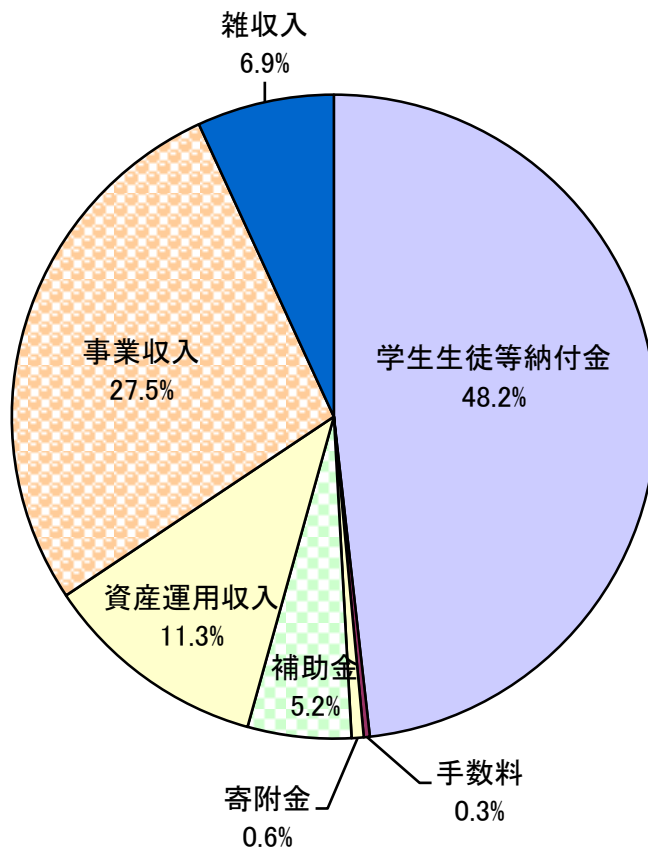
科 目		資 産 の 部					負 債 ・ 基 本 金 及 び 消 費 収 支 差 額 の 部				
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
固定資産(a)	49,666,351	51,568,325	53,305,719	55,335,068	56,452,773	負債(e)	3,806,792	3,697,601	4,180,200	3,584,759	2,669,599
有形固定資産	10,395,566	10,474,492	11,431,306	11,266,188	11,243,389	固定負債(f)	2,454,600	2,375,203	2,250,043	2,097,127	1,693,087
うち、土地	2,853,955	2,853,955	2,853,955	2,853,955	2,853,955	うち、長期借入金	0	0	0	0	0
うち、建物	4,394,721	4,267,053	5,238,794	5,100,576	5,099,226	うち、学校債	0	0	0	0	0
うち、構築物	240,390	223,298	209,738	196,521	184,230	うち、退職給与引当金	2,452,069	2,372,672	2,225,021	2,058,214	1,663,416
うち、教育研究用機器備品	1,431,276	1,352,565	1,581,296	1,535,472	1,494,563	流動負債(g)	1,352,192	1,322,398	1,930,157	1,487,632	976,512
その他の固定資産(1)	39,270,785	41,093,833	41,874,413	44,068,880	45,209,384	うち、短期借入金	0	0	0	0	0
うち、収益事業元入金	0	0	0	0	0	うち、前受金(h)	772,975	771,411	712,739	746,094	549,529
うち、減価償却引当特定資産	8,946,000	8,946,000	8,946,000	8,946,000	8,946,000	基本金(i)	43,919,974	45,247,134	46,841,403	49,500,234	51,616,057
流動資産(b)	1,946,558	1,508,334	2,493,550	1,411,985	939,166	ア第1号基本金	20,661,004	20,865,014	21,321,663	21,853,264	22,224,568
うち、現金・預金(c)	1,464,298	942,636	1,254,015	812,457	550,818	イ第2号基本金	7,000,000	7,600,000	8,200,000	8,800,000	9,022,009
うち、有価証券	0	198,680	0	0	0	ウ第3号基本金	15,838,970	16,362,120	16,899,740	18,426,970	19,949,480
その他の	482,260	367,018	1,239,535	599,508	388,348	エ第4号基本金	420,000	420,000	420,000	420,000	420,000
合計(d)	51,612,909	53,076,659	55,799,269	56,747,033	57,391,939	消費収支差額(j)	3,886,143	4,131,924	4,777,666	3,662,040	3,106,283
						(何)年度	0	0	0	0	0
						消費支出準備金					
						翌年度繰越消費収入					
						超過額又は△翌年度繰越消費支出超過額	3,886,143	4,131,924	4,777,666	3,662,040	3,106,283
						消費支出超過額					
合計	51,612,909	53,076,659	55,799,269	56,747,033	57,391,939	合計	51,612,909	53,076,659	55,799,269	56,747,033	57,391,939
						(e) + (i) + (j)					
						減価償却額の累積額の合計額	10,382,773	10,512,547	10,465,871	10,738,993	11,056,286
						基本金未組入額(k)	22,913	27,602	496,380	78,378	38,069

## 別表 18 財務比率表

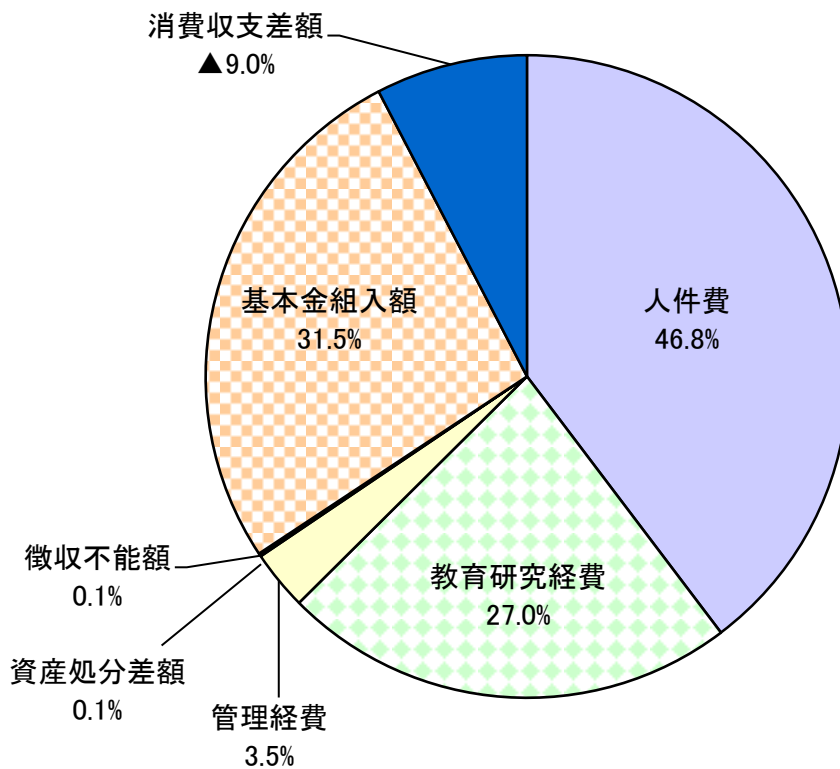
分類	比 率	算 式 (×100)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額 (j)}}{\text{総 資 金 (e) + (i) + (j)}}$	7.5%	7.8%	8.6%	6.5%	5.4%
	基本金比率	$\frac{\text{基 本 金 (i)}}{\text{基本金要組入額 (i) + (k)}}$	99.9%	99.9%	99.0%	99.8%	99.9%
	固定比率	$\frac{\text{固 定 資 産 (a)}}{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}$	103.9%	104.4%	103.3%	104.1%	103.2%
	その他の固定資産構成比率	$\frac{\text{その他の固定資産 (l)}}{\text{総 資 産 (d)}}$	76.1%	77.4%	75.0%	77.7%	78.8%
	流動比率	$\frac{\text{流 動 資 産 (b)}}{\text{流 動 負 債 (g)}}$	144.0%	114.1%	129.2%	94.9%	96.2%
	前受金保有率	$\frac{\text{現 金 預 金 (c)}}{\text{前 受 金 (h)}}$	189.4%	122.2%	175.9%	108.9%	100.2%
	総負債比率	$\frac{\text{総 負 債 (e)}}{\text{総 資 産 (d)}}$	7.4%	7.0%	7.5%	6.3%	4.7%
	負債比率	$\frac{\text{総 負 債 (e)}}{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}$	8.0%	7.5%	8.1%	6.7%	4.9%
	基本金実質組入率	$\frac{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}{\text{基本金要組入額 (i) + (k)}}$	108.8%	109.1%	109.0%	107.2%	105.9%
消 費 収 支 計 算 書	人件費比率	$\frac{\text{人 件 費 (ク)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	51.8%	49.3%	43.8%	48.9%	46.8%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費 (ケ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	26.9%	23.9%	23.5%	24.9%	27.0%
	管理経費比率	$\frac{\text{管 理 経 費 (コ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	3.8%	3.6%	3.1%	3.4%	3.5%
	消費支出比率	$\frac{\text{消 費 支 出 (セ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	82.9%	77.1%	71.2%	77.9%	77.5%
	【経常経費依存率】	$\frac{\text{消 費 支 出 (セ)}}{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金 (ア)}}$	158.8%	147.8%	155.2%	158.6%	160.8%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金 (ア)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	52.2%	52.1%	45.8%	49.1%	48.2%
	寄附金比率	$\frac{\text{寄 附 金 (イ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	0.7%	0.7%	0.5%	0.6%	0.6%
	補助金比率	$\frac{\text{補 助 金 (ウ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	7.3%	7.5%	15.7%	8.6%	5.2%
	基本金組入率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額 (力)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	28.8%	21.4%	20.9%	38.2%	31.5%

別表 19

23年度帰属収入構成比率



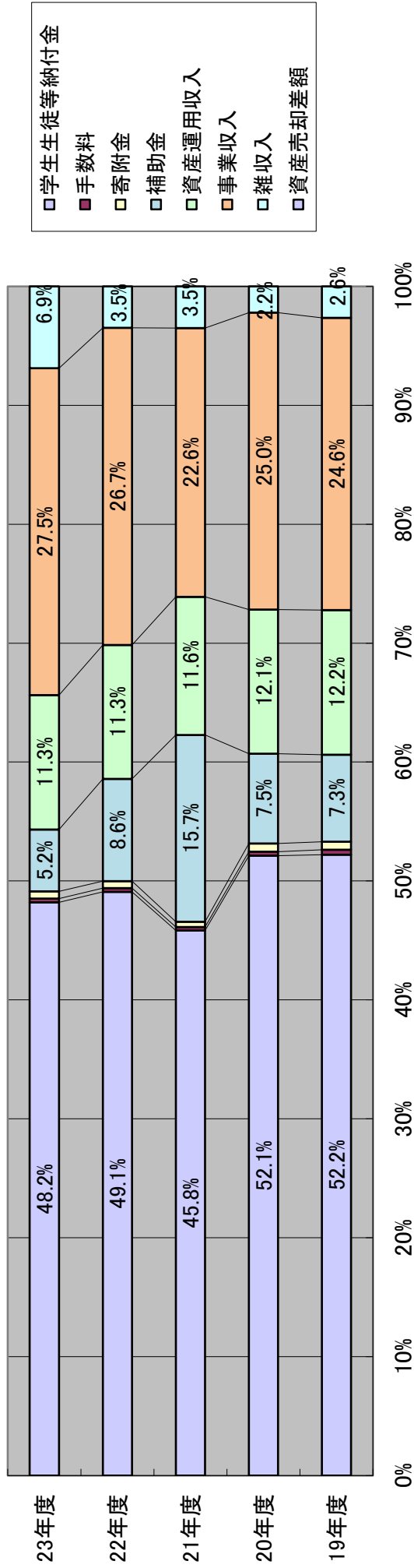
23年度消費支出他構成比率  
(帰属収入に対する割合)





# 別表 20

## 帰属収入科目構成比率年度別推移



## 消費支出科目等の帰属収入割合年度別推移

